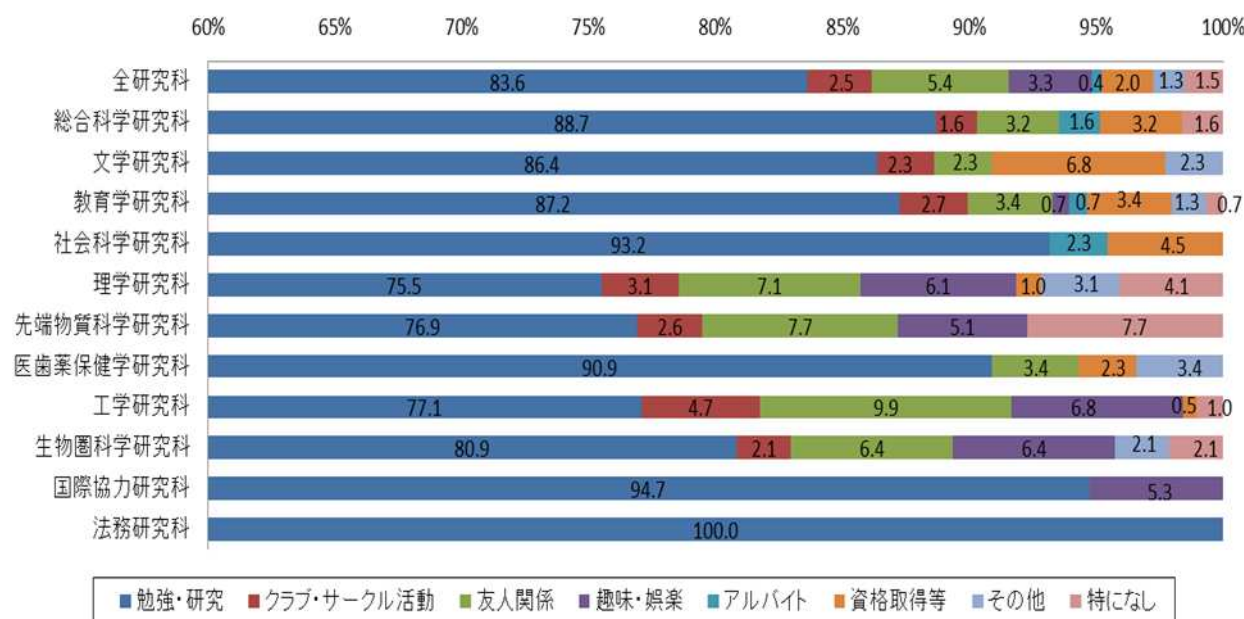


大学院

1 大学生活において大切にしているもの

設問1 大学生活において何を大切にしていますか。

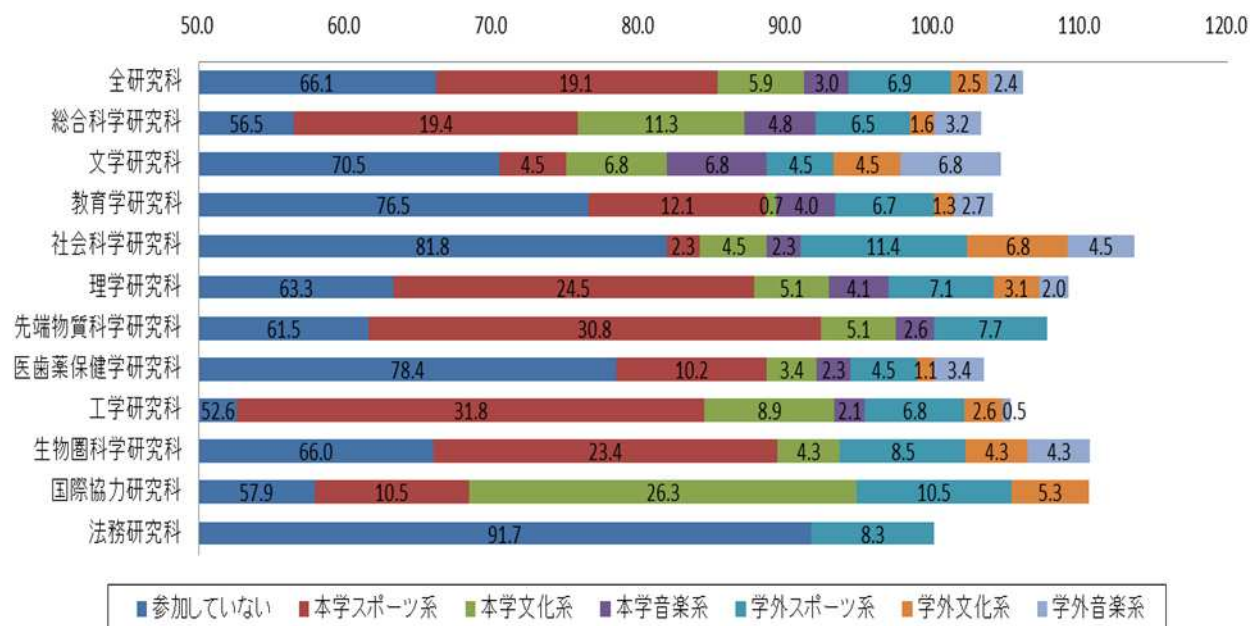
ほとんどの大学院生が勉強・研究を最優先としており、クラブ・サークル活動や友人関係を最優先とする人の比率は学部生と比べてはるかに小さくなっている。設問2の結果に加え、大学行事やボランティア活動への参加率（設問3,4）が学部生と比べても大きくは減っていないことからして、学部時代にクラブ・サークル活動を優先していた学生が、進学後は勉強優先にシフトする様子が伺える。



2 学内外のクラブ・サークル活動への参加

設問2 学内外のクラブやサークル活動に参加していますか。（複数回答可）

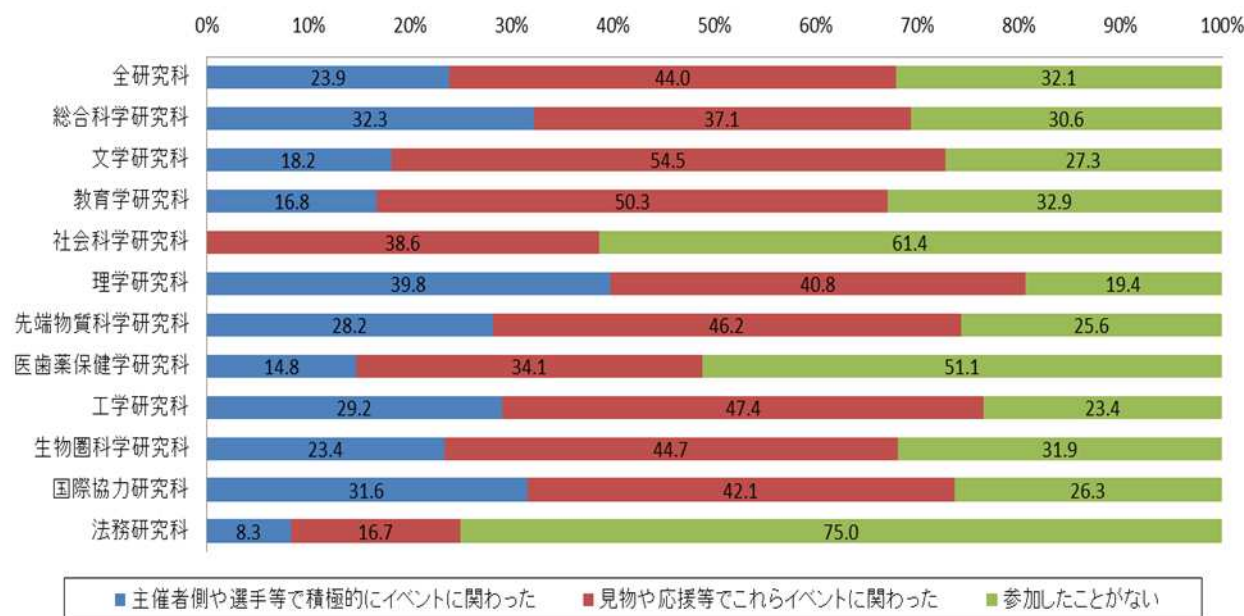
学内外を含めたサークル活動に参加している大学院生は半数に満たない。学部生の回答と比較すると、学内のクラブ・サークル活動への参加が大きく減っているのに対し、学外のクラブ・サークル活動への参加率の増大が目立つ。活動の多様性や範囲が大きくなっていることを伺わせる。



3 大学の行事への参加

設問3 大学祭、ゆかたまつり、フェニックス駅伝等の大学の行事に参加したことがありますか。

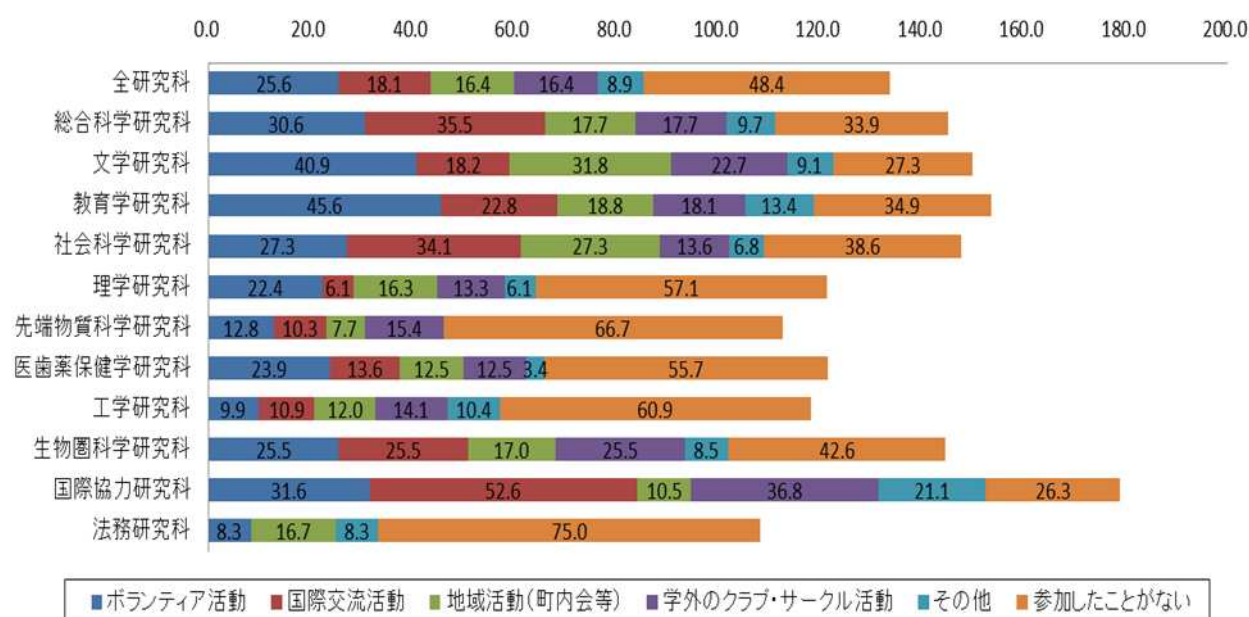
学部生同様、大学行事への関心は高く、7割近い大学院生が何らかの形で行事に参加した経験を持つ。社会科学研究科において、主催者等として行事へ参加したという回答がない。他研究科と比較してサンプル数が特に少ないわけではないことを考えると、何らかの要因があるのかもしれない。



4 ボランティアや地域活動への参加

設問4 ボランティア活動や地域の活動に参加したことがありますか。(複数回答可)

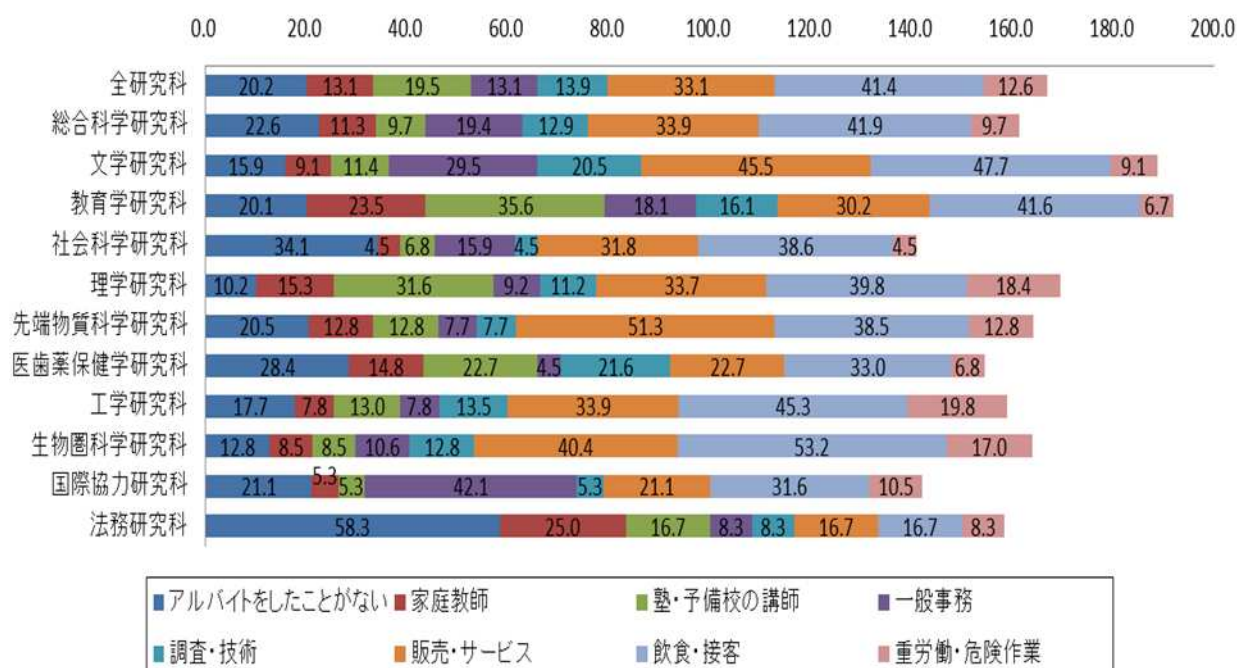
ボランティアや地域活動への参加経験のない大学院生は半数以下であり、学部生と比べてこのような活動に対する意識が高いことがうかがえる。いくつかの研究科において、国際交流活動への参加経験が目立ち、この傾向は前回（H22年）の調査結果とほぼ変わらない。



5 アルバイト

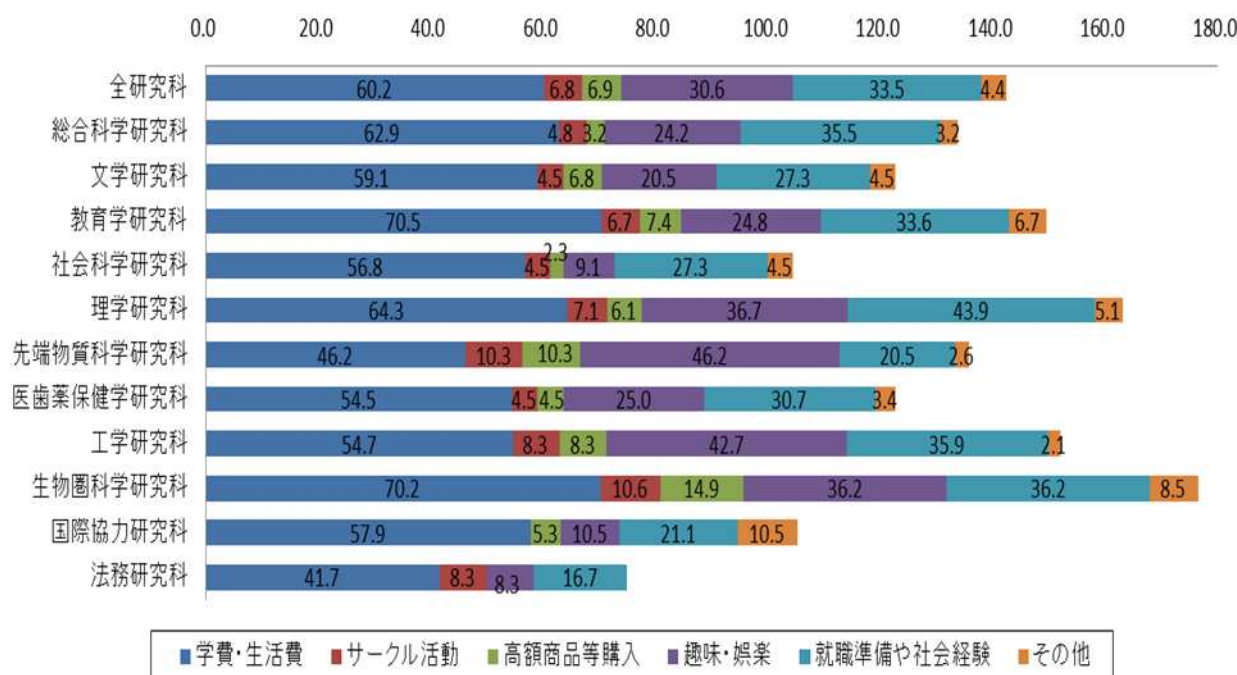
設問5 入学後何らかのアルバイトに就業したことがありますか。(複数回答可)

全体では約8割の大学院生がアルバイトを経験している。職種は飲食・接客(41.4%)、販売・サービス(33.1%)、塾・予備校の講師(19.5%)が上位3職種である。この傾向は、学部生とほぼ同じである。アルバイト未経験者は約3%の微増。



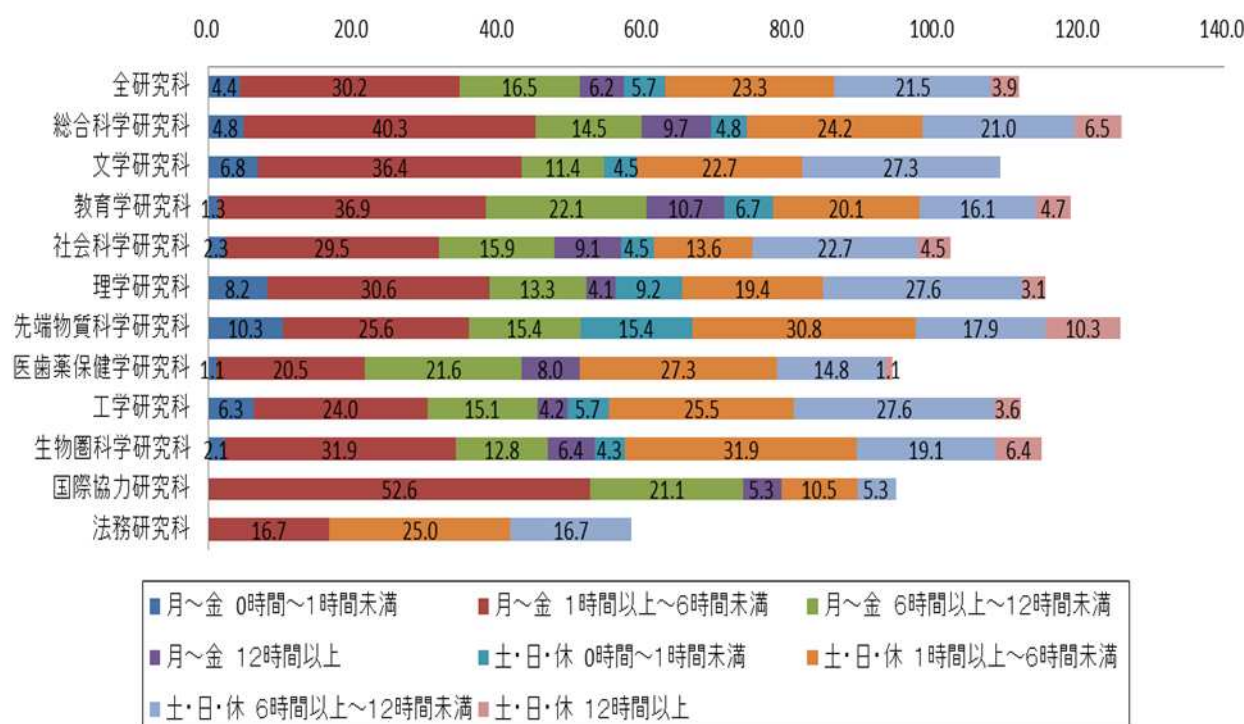
設問6 アルバイトの主な目的は何ですか。(複数回答可)

アルバイトの目的は、学費・生活費(60.2%)が最も多いが、前回調査に比べ約20%減少している。在学期間が短く入学後すぐ就職活動が始まることから、就職準備や社会経験(33.5%)が趣味・娯楽(30.6%)を上回っている。



設問7 アルバイトに充てている時間を「月曜から金曜」、「土曜 及び 日曜・休日」それぞれのなかから一ずつ選択してください。

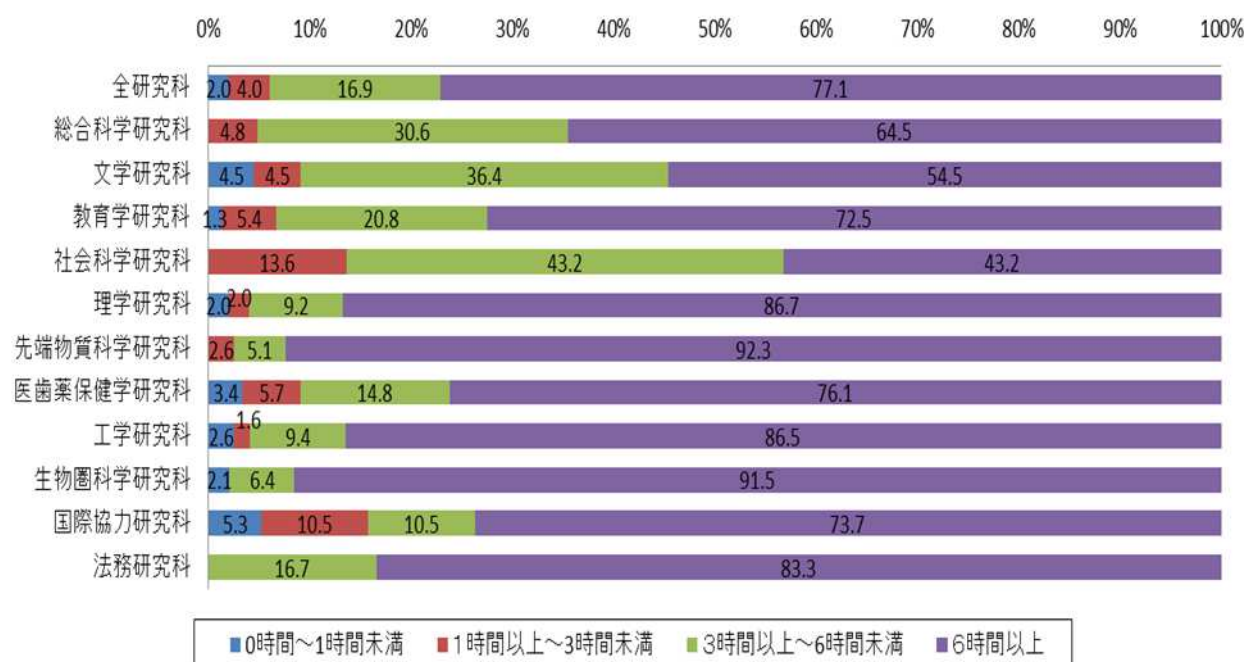
アルバイトに充てている時間は、「月曜から金曜の1時間以上6時間未満」(30.2%)、「土日休の1時間以上6時間未満」(23.3%)、「土日休の6時間以上12時間未満」(21.5%)の順に多い。



6 大学構内での滞在時間・場所について

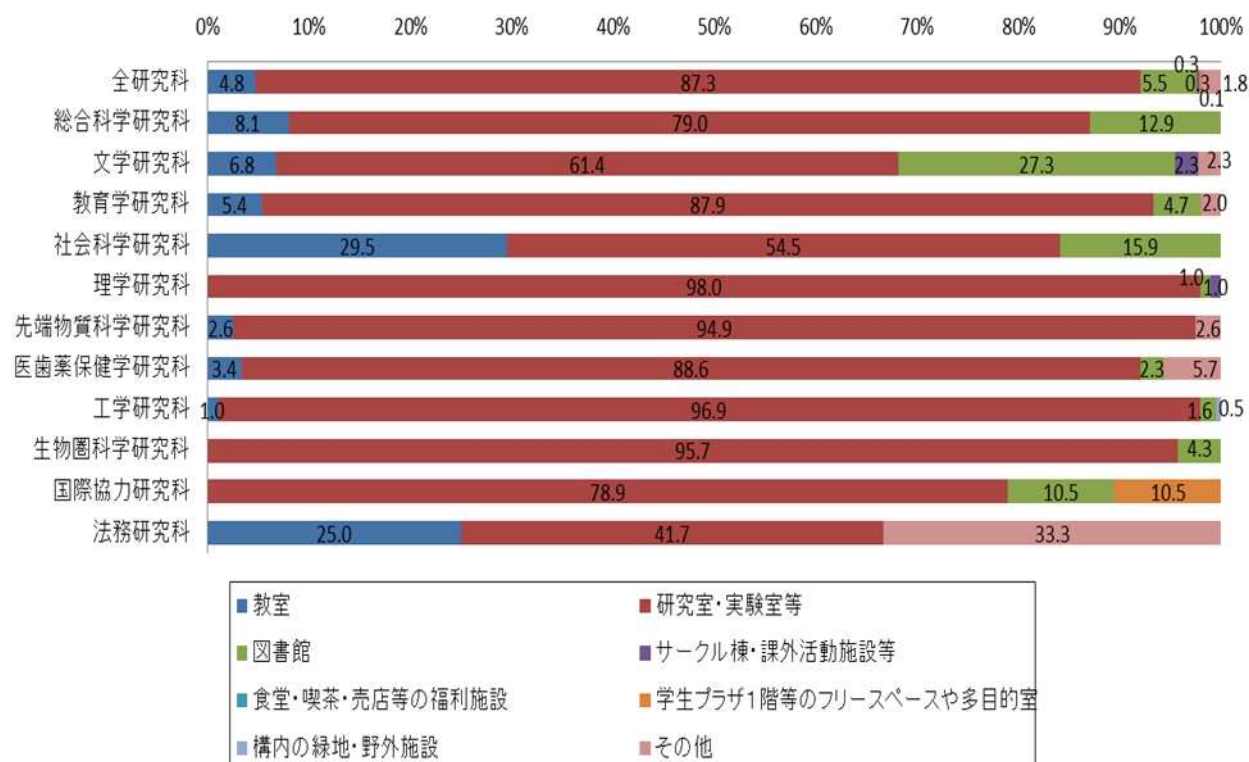
設問8 大学構内にどれくらいの時間滞在していますか。

全体では、約8割(77.1%)の大学院生が6時間以上滞在している。研究科別では、先端物質科学研究科、生物圏科学研究科では9割以上の学生が大学に6時間以上滞在しており、理工系の研究科の方が、文系研究科の学生に比べ長く滞在している。



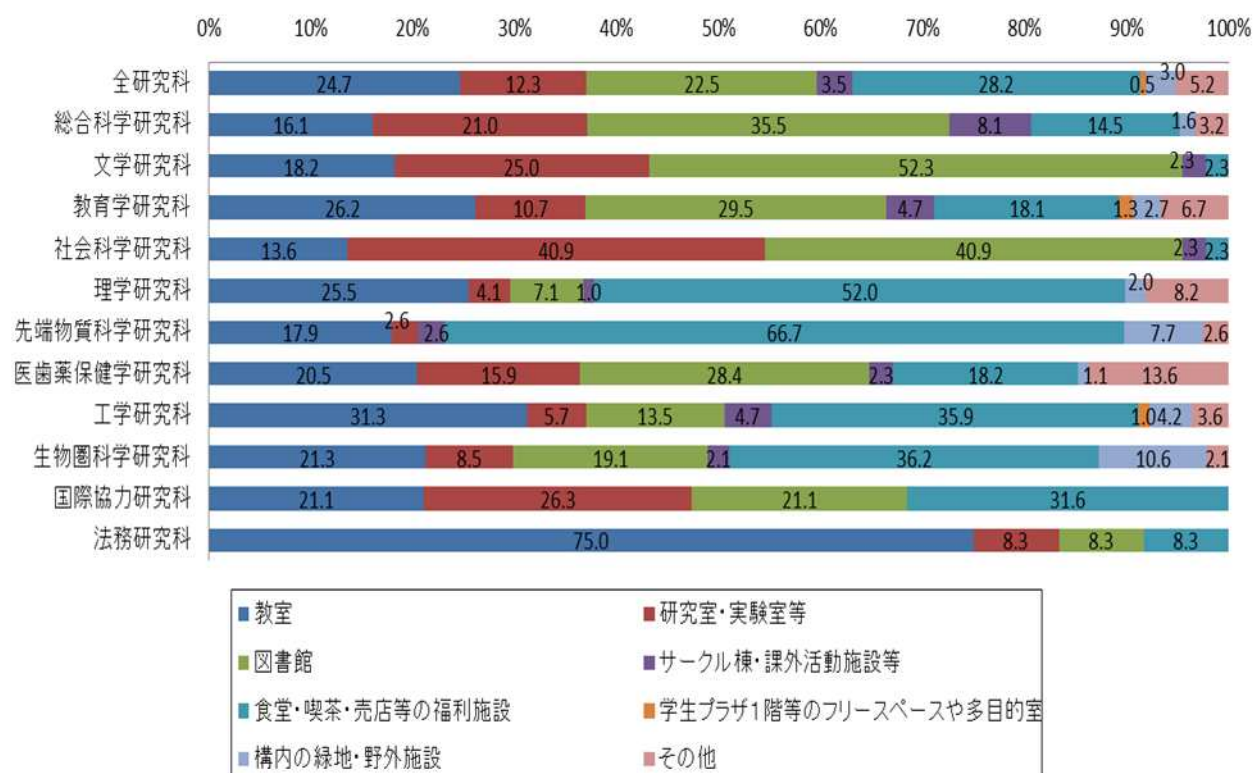
設問9 大学構内の滞在時間のうち、1番多く滞在している場所はどこですか。

全体的に、滞在時間の多くを過ごす場所は、研究室・実験室等(87.3%)である。法務研究科(41.7%)、社会科学研究科(54.5%)では、この比率が低く、その分を教室や図書館などで過ごしている。



設問10 大学構内の滞在時間のうち、2番目に多く滞在している場所はどこですか。

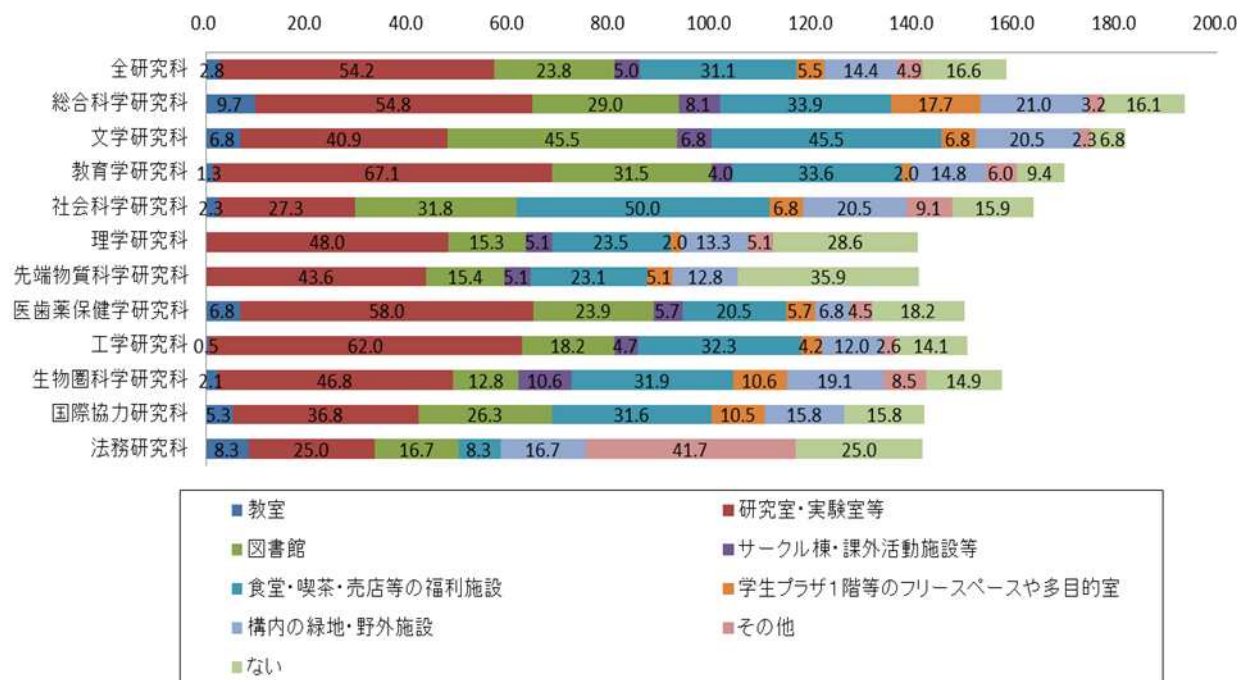
大学内で2番目に長く滞在している場所は、全体では食堂・喫茶・売店等の福利施設(28.2%)、教室(24.7%)、図書館(22.5%)の順である。



7 大学構内でくつろいで過ごせる場所

設問 11 大学内にくつろいで過ごせる場所がありますか。(複数回答可)

大学構内でくつろいで過ごせる場所は、全体では研究室・実験室等（54.2%）、食堂・喫茶・売店等の福利施設（31.1%）、図書館（23.8%）の順であり、学部生に比べて、研究室等でくつろげるとの回答が多い。

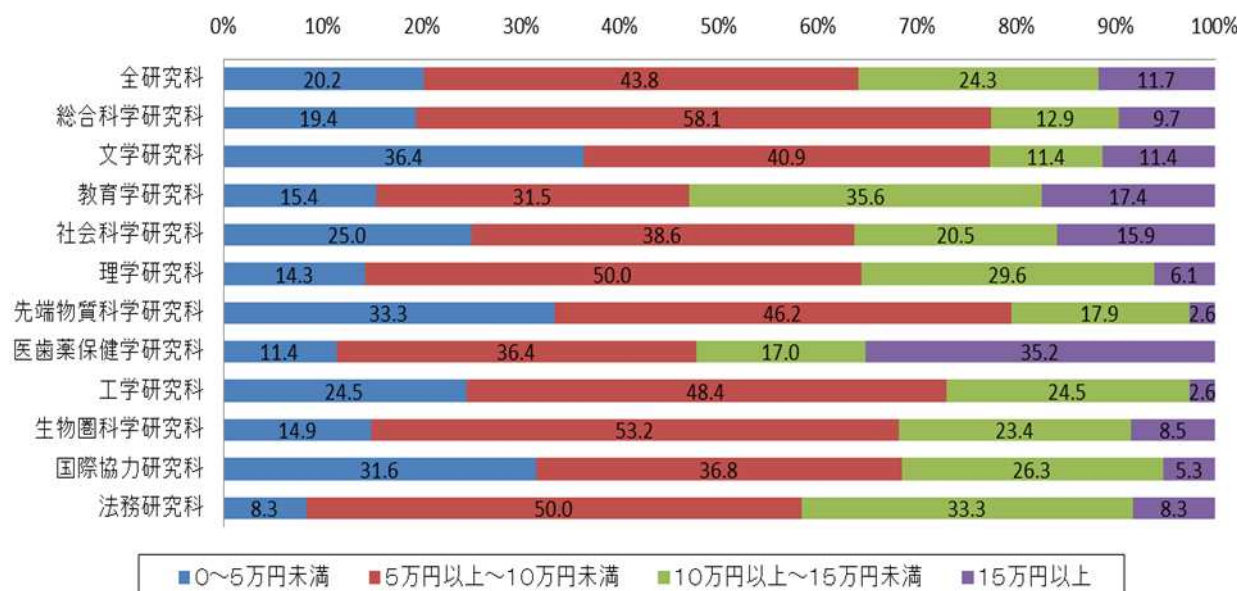


8 1ヶ月の生計費（収入・支出）

設問 12 1ヶ月の生計費（収入）はいくらですか。

1ヶ月の生計費（収入）について、全研究科で見た場合、5万円以上～10万円未満が43.8%と最も多くなっている。これに10万円以上～15万円未満（24.3%）、0～5万円未満（20.2%）、15万円以上（11.7%）の順となっている。また前回調査と比較して、0～5万円以上、5万円以上～10万円未満の比率がそれぞれ高まっており、生計費（収入）の減少が生じていることが明らかになった。この傾向は学部と同様であり、結果として生計費（収入）が10万円未満の学生の比率が上昇（前回調査 60.1%→64.0%）してきている。

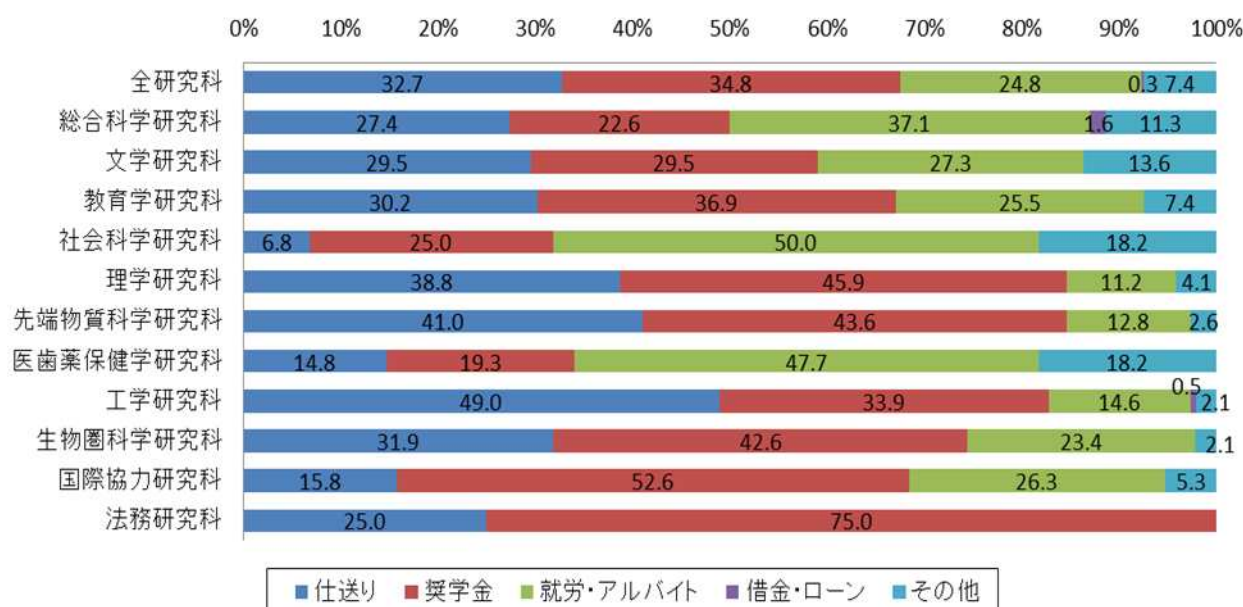
研究科別に見ると、文学研究科、先端物質科学研究科、国際協力研究科で0～5万円未満の比率が3割を超えていることがわかる。



設問 13 1ヶ月の生計費（収入）のうち、1番多い収入は、次のどれですか。

1ヶ月の生計費（収入）のうち1番目に多い収入について、全研究科で見た場合、奨学金（34.8%）が最も大きくなっている。次いで、仕送り（32.7%），就労・アルバイト（24.8%），その他（7.4%），借金・ローン（0.3%）の順となっている。学部生と比較して、大学院生においては仕送りではなく、奨学金が1番目に多い収入として挙げられている点で違いがある。

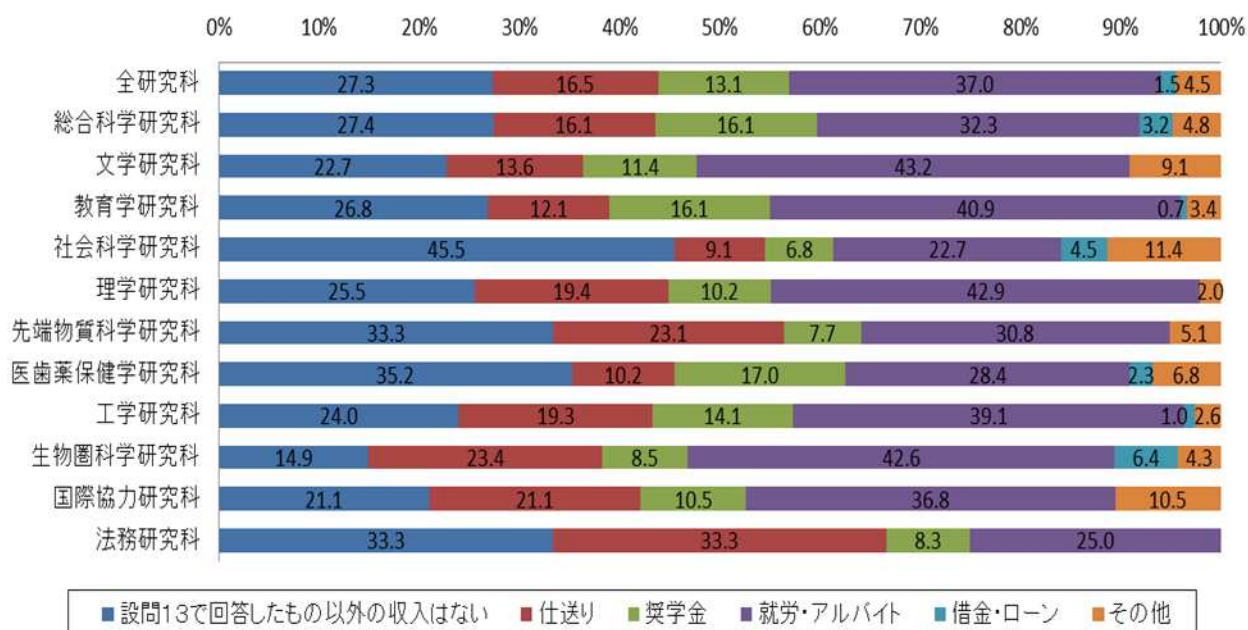
研究科別に見た場合、医歯薬保健学研究科で奨学金の比率が19.3%に過ぎない一方で、法務研究科で75%に達していることが分かる。



設問 14 1ヶ月の生計費（収入）のうち、2番目に多い収入は、次のどれですか。

1ヶ月の生計費（収入）のうち2番目に多い収入について、全研究科で見た場合、就労・アルバイト（37.0%）が最も大きくなっている。次いで「設問13で回答した以外の収入はない」（27.3%），仕送り（16.5%），奨学金（13.1%），その他（4.5%），借金・ローン（1.5%）の順となっており、学部生と同様の傾向にある。

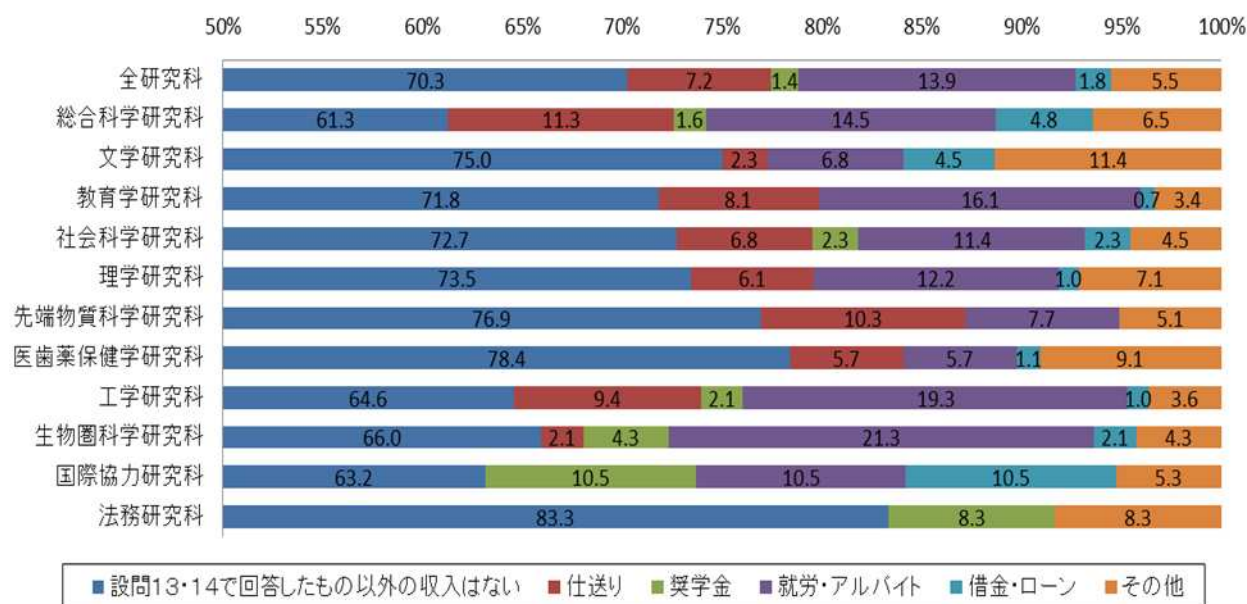
研究科別に見た場合、文学研究科，教育学研究科，理学研究科，生物圏科学研究科で就労・アルバイトの比率が4割を超えている。



設問 15 1ヶ月の生計費（収入）のうち、3番目に多い収入は、次のどれですか。

1ヶ月の生計費（収入）のうち3番目に多い収入について、全研究科で見た場合、「設問13・14で回答した以外の収入はない」（70.3%）が最も大きくなっている。次いで就労・アルバイト（13.9%）、仕送り（7.2%）、その他（5.5%）、借金・ローン（1.8%）、奨学金（1.4%）の順となっており、学部生とほぼ同様の傾向にある。

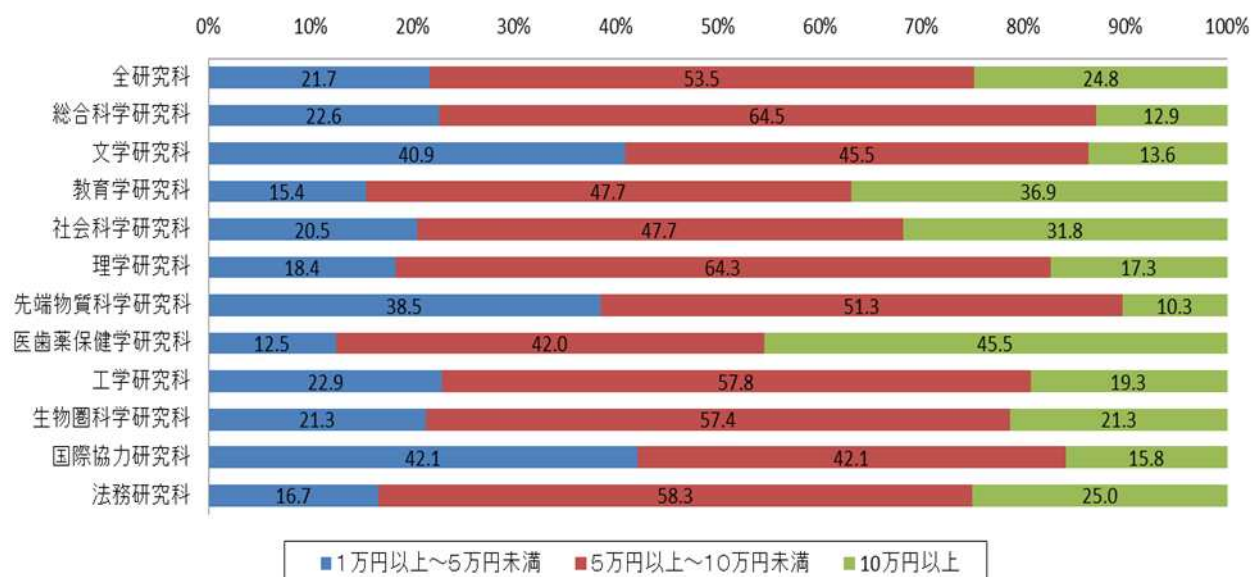
研究科別に見た場合、法務研究科で「設問13・14で回答した以外の収入はない」が8割を超えている。



設問 16 1ヶ月の生計費（支出）はいくらですか。

1ヶ月の生計費の支出について、全研究科で見た場合、5万円以上～10万円未満が最も多くなっている。次いで10万円以上、1万円以上～5万円未満の順となっている。また前回調査に比較して、10万円以上（前回調査25.6%→今回調査24.8%）、5万円以上～10万円未満（55.5%→53.5%）の比率がそれぞれ減少し、1万円以上～5万円未満（18.9%→21.7%）の比率が高まっており、生計費の減少が生じていることが明らかになった。以上の動向は学部生と同様の結果となっている。

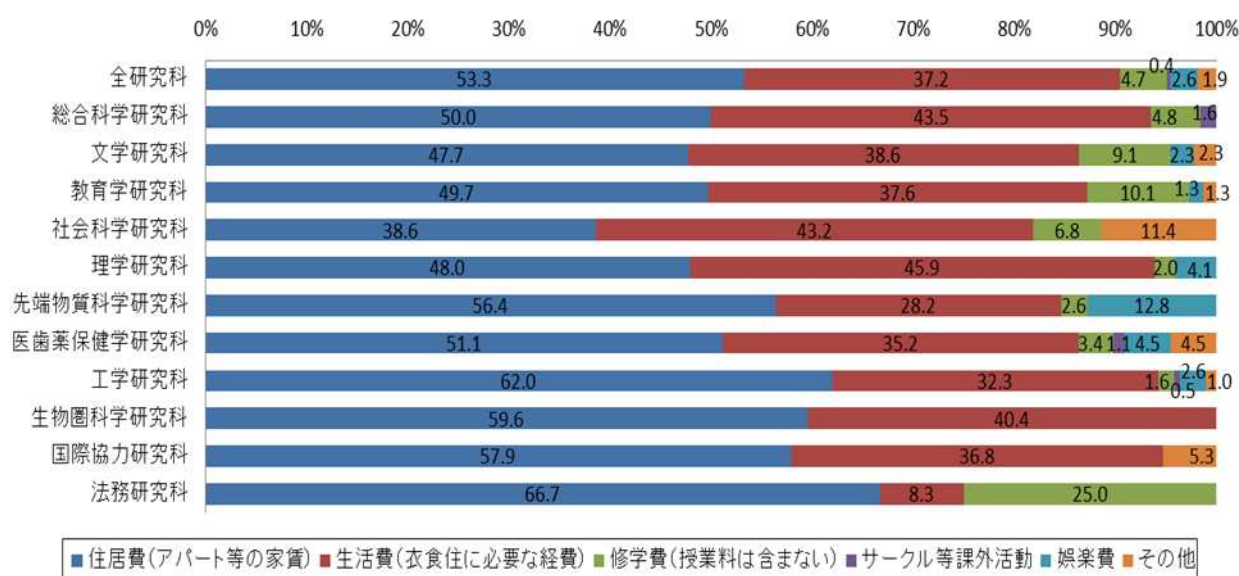
研究科別に見ると、1万円以上～5万円未満の比率が最も高いのは、国際協力研究科、次いで文学研究科、先端物質科学研究科の順となっている。



設問 17 1ヶ月の生計費（支出）のうち、1番多く必要とする経費は何ですか。ただし、授業料は含みません。

1ヶ月の生計費（支出）のうち、1番多く必要とする経費について、全研究科で見た場合、住居費（アパートの家賃）（53.3%）、生活費（衣食住に必要な経費）（37.2%）、修学費（4.7%）、娯楽費（2.6%）、その他（1.9%）、サークル等課外活動（0.4%）の順となる。学部生と比較して、住居費が最も多くあげられている点では同様であるが、学部生では修学費が1.4%を占めるにすぎないが、大学院生では4.7%と若干高くなっているなどの点では異なる。

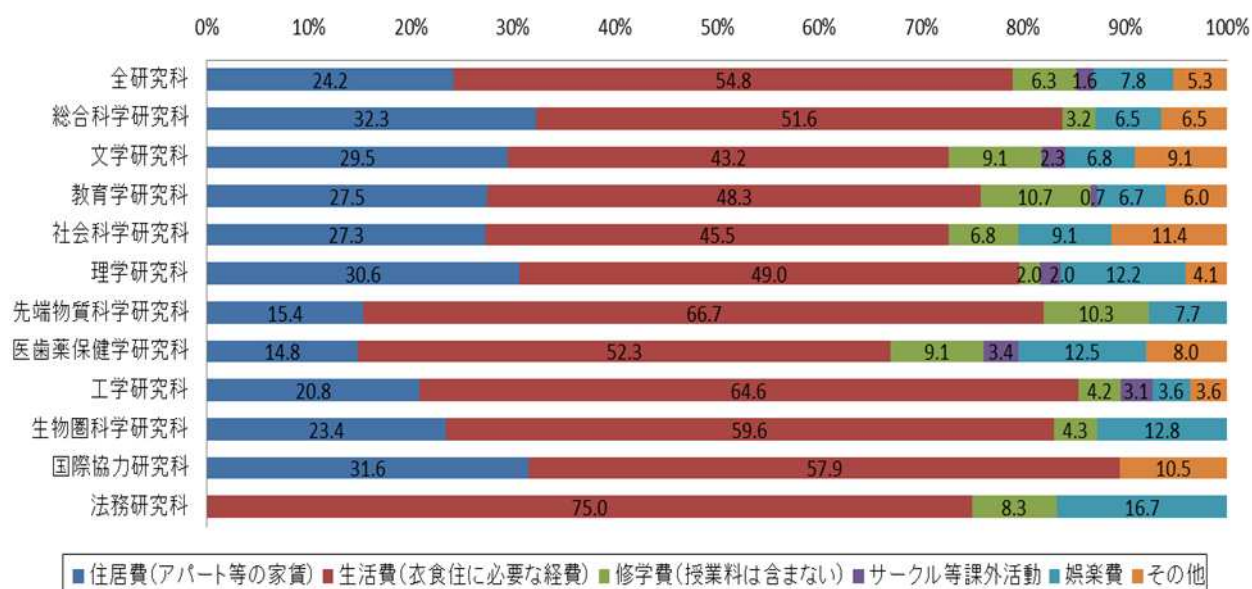
研究科別にみると、法務研究科で住居費と修学費の比率が特に高くなっていることが分かる。



設問 18 1ヶ月の生計費（支出）のうち、2番目に多く必要とする経費は何ですか。ただし、授業料は含みません。

1ヶ月の生計費（支出）のうち、2番目に多く必要とする経費について、全研究科で見た場合、生活費（衣食住に必要な経費）（54.8%）、住居費（アパートの家賃）（24.2%）、娯楽費（7.8%）、修学費（6.3%）、その他（5.3%）、サークル等課外活動（1.6%）の順となる。学部生では2番目に多く必要とする経費として生活費が最も多くあげられている点では同様であるが、学部生では娯楽費が15.9%を占めているが、大学院生では7.8%と少なくなっている点などでは異なる。

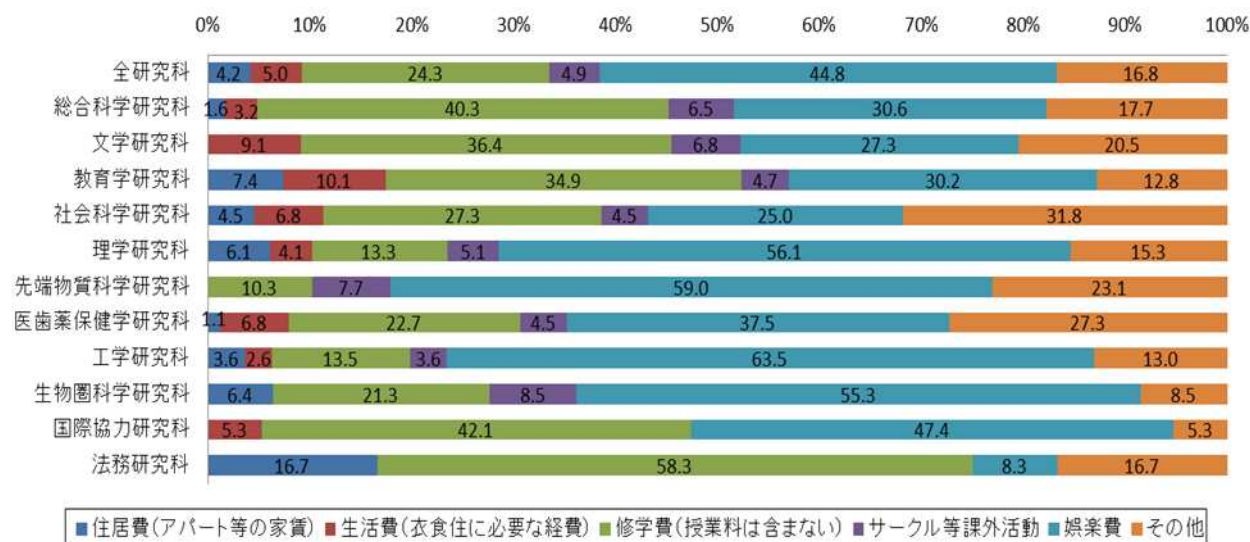
研究科別にみた場合、法学研究科で生活費と回答する比率が7割を超えている。



設問 19 1ヶ月の生計費（支出）のうち、3番目に多く必要とする経費は何ですか。ただし、授業料は含みません。

1ヶ月の生計費（支出）のうち、3番目に多く必要とする経費について、全研究科で見た場合、娯楽費（44.8%）、修学費（24.3%）、その他（16.8%）、生活費（衣食住に必要な経費）（5.0%）、サークル等課外活動（4.9%）、住居費（アパートの家賃）（4.2%）の順となる。学部生では3番目に多く必要とする経費として娯楽費についてサークル等課外活動が多く挙げられていたが、大学院生では娯楽費に次いで修学費が多く挙げられている点で異なる。

研究科別にみた場合、法務研究科では修学費と回答する比率が6割弱に達している。

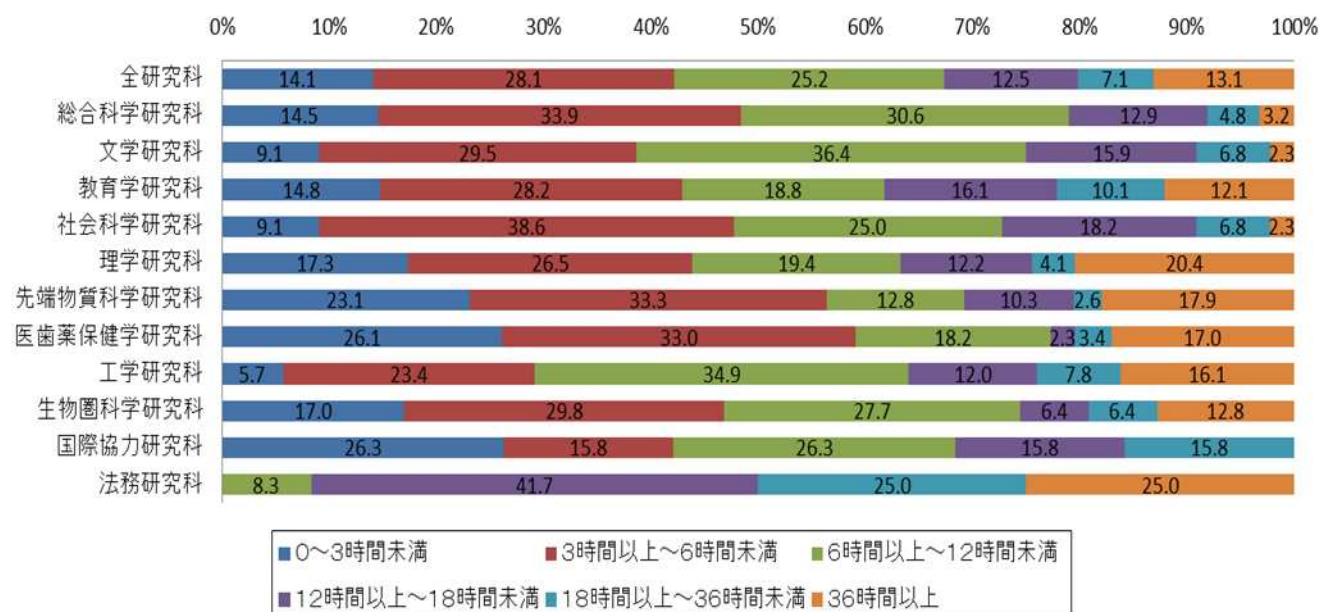


9 1週間の学習時間

設問 20 授業期間中、平均して1週間でどれくらいの時間を授業・ゼミにあてていますか。

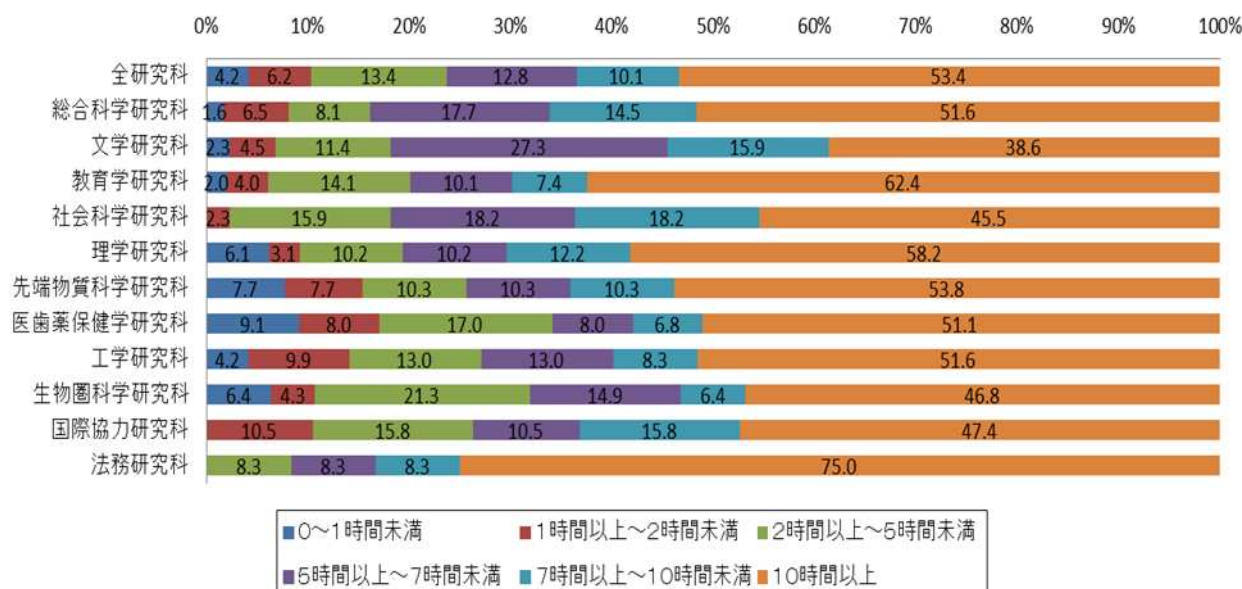
授業・ゼミ等にあてる1週間の平均時間を全学的に見ると、多い順に3時間以上6時間未満が28.1%、6時間以上12時間未満が25.2%、0時間以上3時間未満が14.1%などとなっている。この傾向は一部の研究科を除いて、多少の変動はあるものの、文系理系を問わず概ね共通した傾向となっており、学部によって分布が大きく異なった学部生に対する同設問の結果と比較して興味深い。

法務研究科は約半数の大学院生が週当たり18時間(2.4コマ/日)以上を授業・ゼミにあてており、この点が他研究科と大きく異なっている。これは同研究科の性格やカリキュラムを反映しているのかも知れない。



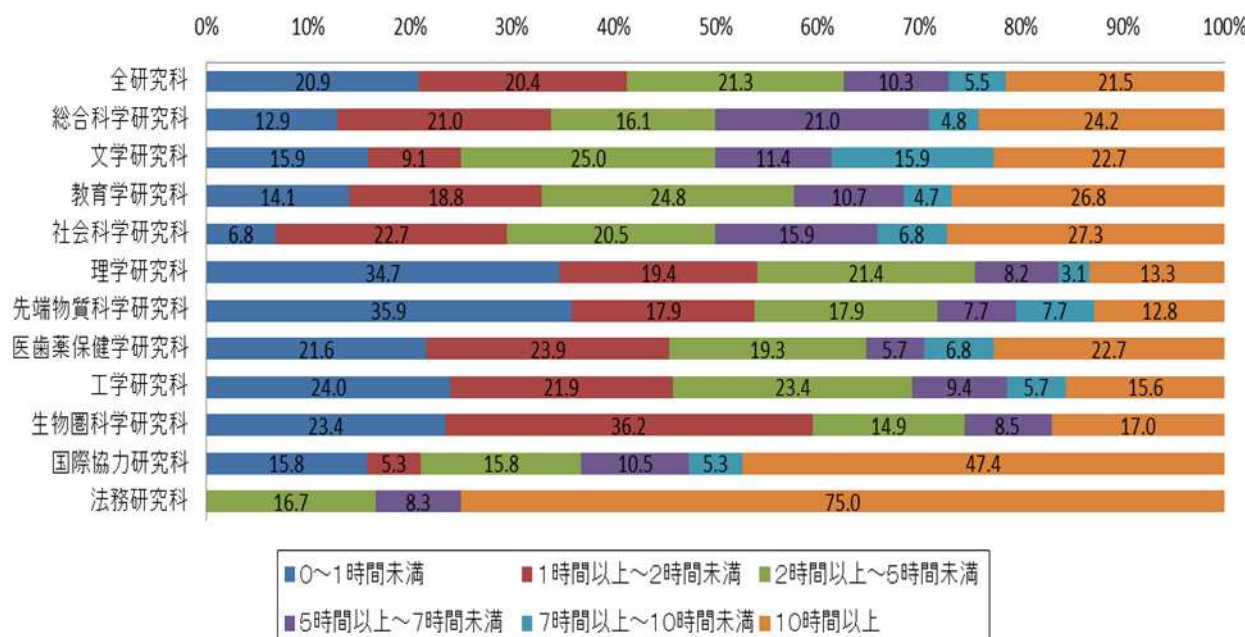
設問 21 授業期間中、平均して1週間でどれくらいの時間を研究や授業・ゼミの予習・復習・レポート作成などにあてていますか。

研究や授業・ゼミ等の予復習にあてる1週間の平均時間を全学的に見ると、多い順に10時間以上が53.4%、2時間以上5時間未満が13.4%、次いで5時間以上7時間未満が12.8%などとなっており、半数以上の大学院生が週10時間以上を費やしていることが分かる。この傾向は研究科によってやや差はみられるものの、概ね全研究科に共通した傾向と言える。ここでも法務研究科は75%が週10時間以上を費やしており、分布が他研究科とかなり異なる結果となっている。



設問 22 授業期間中、平均して1週間でどれくらいの時間を授業・ゼミ・研究以外の学習にあてていますか。

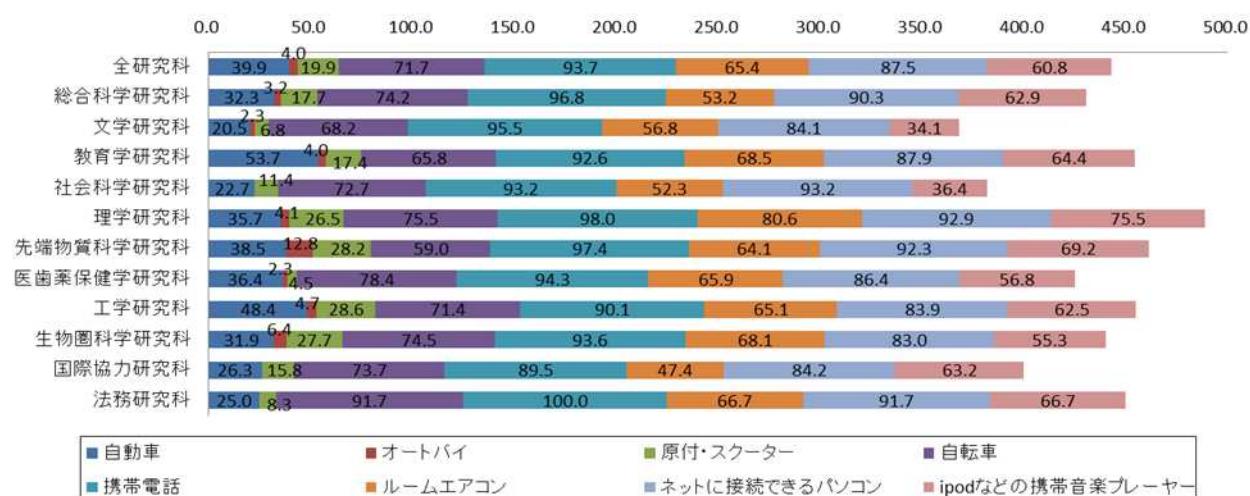
これには各種資格・就職試験準備や授業以外の語学、或いは趣味・教養に関する学習などが該当するものと思われるが、1週間の平均時間を全学的に見ると、1時間未満、1時間以上2時間未満、2時間以上5時間未満、10時間以上がそれぞれ約20%を占め、あまり顕著な特徴は見られない。しかし研究科ごとに比較すると、かなり分布に違いがみられ、例えば法務研究科では1時間未満が皆無で、10時間以上が75%を占めるのに対し、理学研究科や先端物質研究科では1時間未満が約35%、10時間以上が約13%となっている。学部生に対する同設問では学部による差があまりみられなかったため、この結果は興味深い。



10 所有もしくは占有している物

設問 23 所有もしくは専用物がありますか。(複数回答可)

所有物の保有比率を全学的に見ると、まず移動手段については自動車 39.9% (H22 年度 41.9%), オートバイ 4.0% (H22 年度 7.1%), 原付・スクーター 19.9% (H22 年度 17.1%) 自転車は 71.7% (H22 年度 67.1%) と何れも前回調査に比べてあまり変動はみられなかった。学部生への調査結果と比較すると、特に自動車の保有比率(学部生は 13.6%)が高いことが分かる。その分、自転車の保有比率は大学院生の方が若干低い傾向がある(学部生は 86.4%)。携帯電話は 93.7% (H22 年度 92.2%), ネットに接続できるパソコンは 87.5% (H22 年度 83.2%) と、前回調査とほぼ変わらず、また、学部生の保有比率ともあまり変わらない。これらは既に殆どの学生が所有しているものと考えられる。ルームエアコン 65.4% (H22 年度 67.3%), 携帯音楽プレーヤー 60.8% (H22 年度 61.3%) も前回調査時とあまり比率に変化がみられないが、学部生に比べると若干低い傾向がある(エアコン 73.7%, 携帯プレーヤー 73.2%)。多少の変動はあるものの、いずれに関しても研究科ごとの顕著な保有率の差は認められなかった。



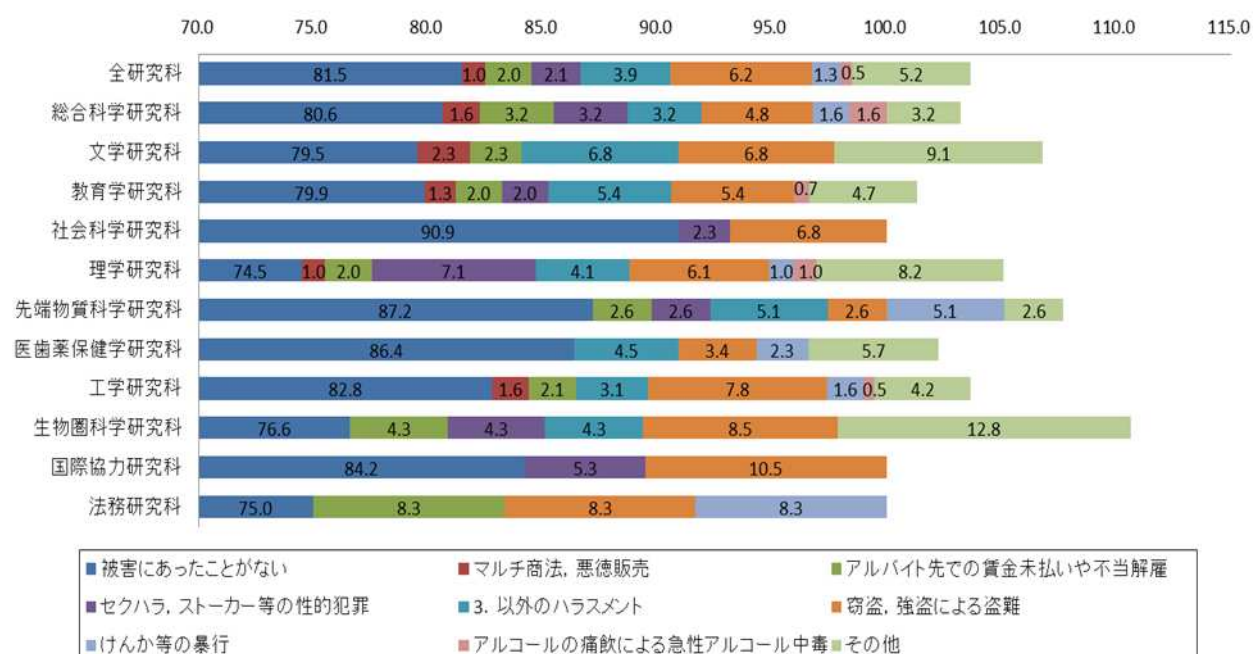
11 犯罪やトラブルなどの被害経験

(複数回答可)

設問 24 学生生活において、何らかの犯罪や民事上の被害・トラブルを経験したことがありますか。

犯罪やトラブルなど、何らかの被害にあったことがある者は 18.5% (H22 年度 19.2%) であった。

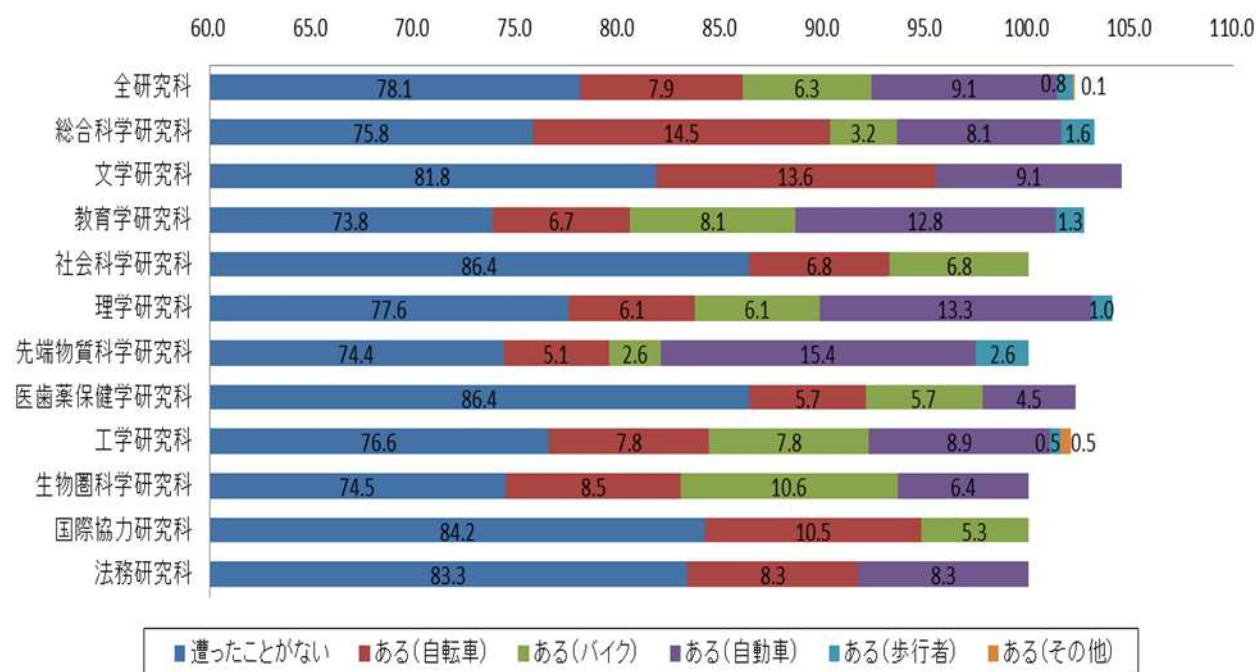
割合として高いのは盗難で 6.2% (H22 年度 5.8%), セクハラ・ストーカー等の性犯罪 2.1% (H22 年度 2.3%), それ以外のハラスメント 3.9% (H22 年度 4.4%), アルバイト先での賃金未払いや不当解雇が 2.0% (H22 年度 1.8%) となっている。アカデミックハラスメント等が学部生 1.3%と比較して多いことが示唆された。



1 2 交通事故の経験

設問 25 在学中交通事故に遭ったことがありますか。(複数回答可)

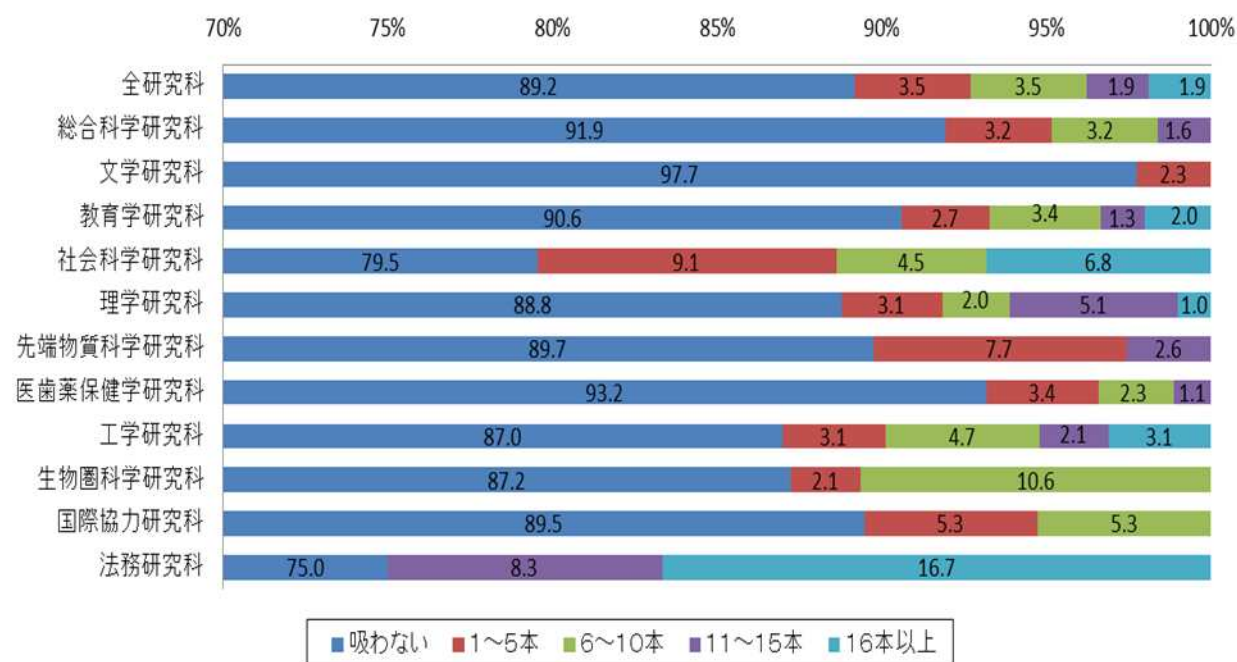
在学中に交通事故にあったことがある者は 21.9%。自動車での事故がもっとも多く 9.1%，自転車 7.9%，バイク 6.3%，歩行者 0.8% となっており，前回とほぼ同様の結果であった。学部生と比較して交通事故および自動車事故の比率が高くなっている。



1 3 喫煙及び飲酒の習慣

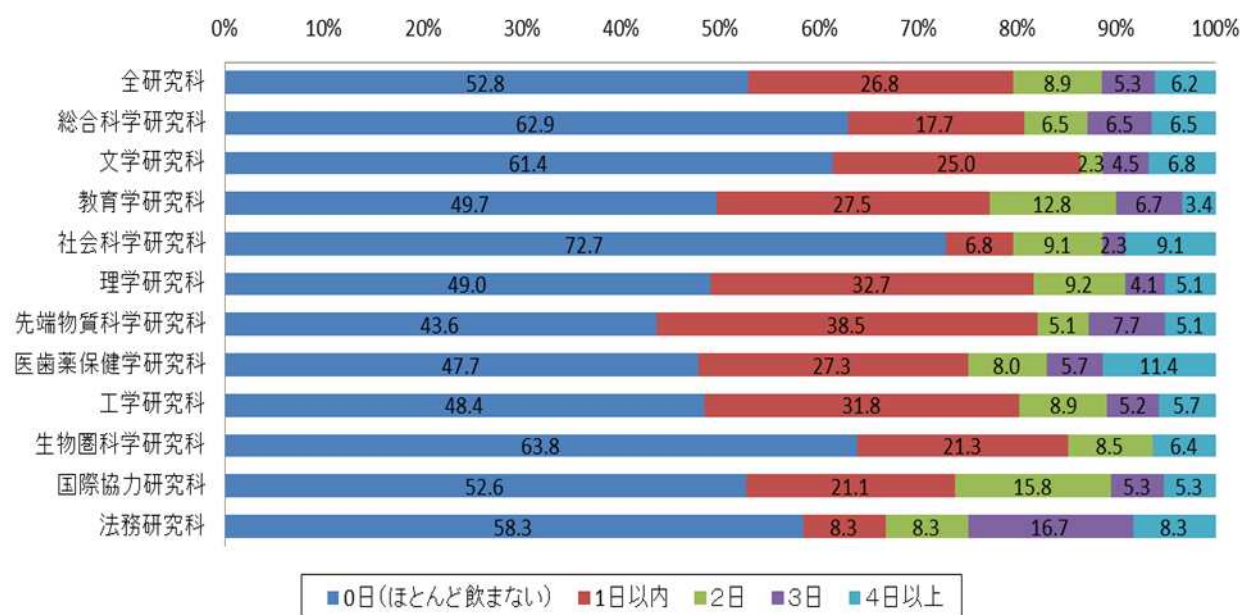
設問 26 喫煙の習慣がありますか。1日に吸う本数をお答えください。

喫煙の習慣がある者は 10.8% であり，前回調査では 12.4% であるから減少しており，1日に吸う本数も減っている。ただし，学部生に比べて喫煙習慣がある者は 7% 増加している。



設問 27 飲酒の習慣がありますか。1週間に飲む日数でお答えください。

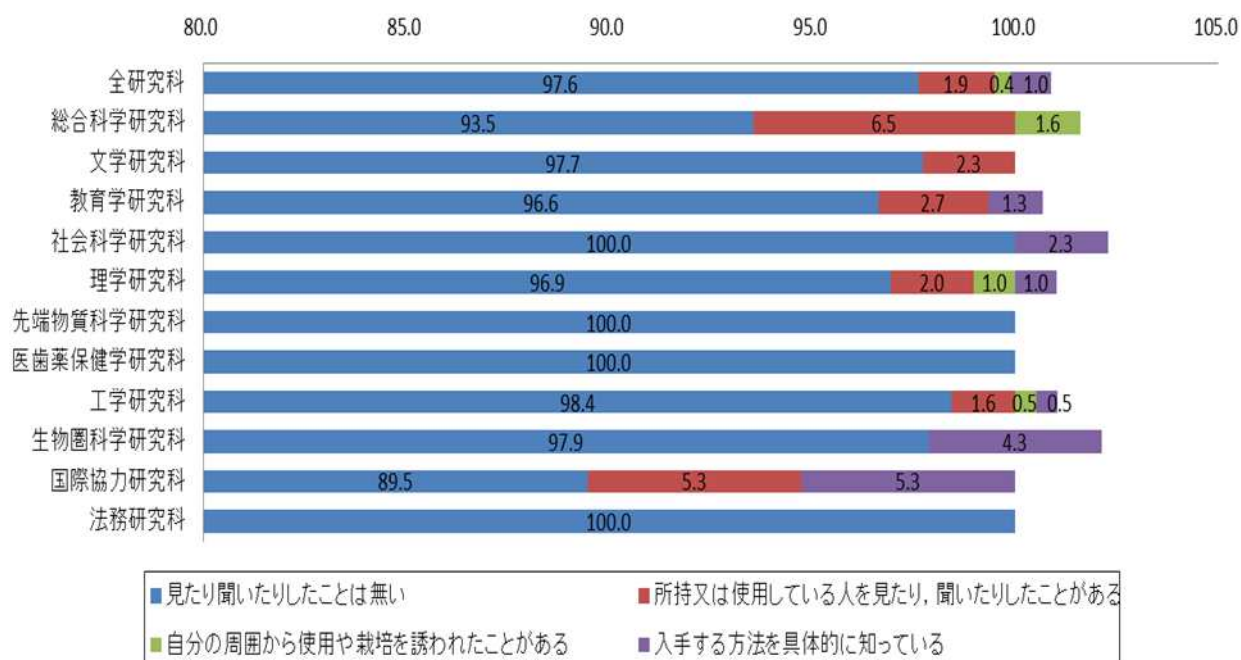
飲酒の習慣がある者は、47.2%であり、前回調査では 39.9%であるから、飲酒の習慣は増えている。学部生と比較しても飲酒の習慣は 12%増加している。週の内 3 日以上飲酒する者が 13.8%であり、前回調査では 8.8%であるから、飲酒する頻度も増加している。



1 4 薬物（大麻等・覚醒剤）について

設問 28 薬物（大麻等・覚醒剤）について、該当するものを選択してください。（授業・研究目的のものは除く）（複数回答可）

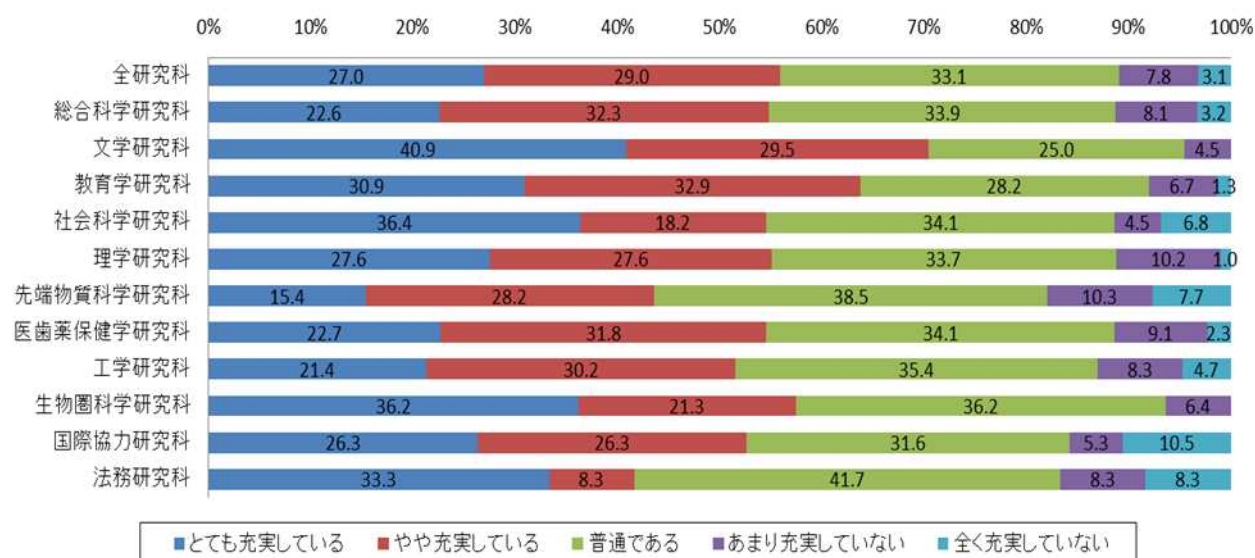
薬物（大麻等・覚醒剤）について、97.6%が見たり聞いたりしたことはないと回答しており、前回 98.2%と同様の結果であった。しかし、所持又は使用している人を見たり聞いたりしたことがある者 1.6%、薬物の使用や栽培を誘われたことがある者も 0.4%存在する。この結果は学部生とも同様である。



15 授業以外の学生生活の充実度

設問 29 授業以外の学生生活を充実して過ごしていますか。

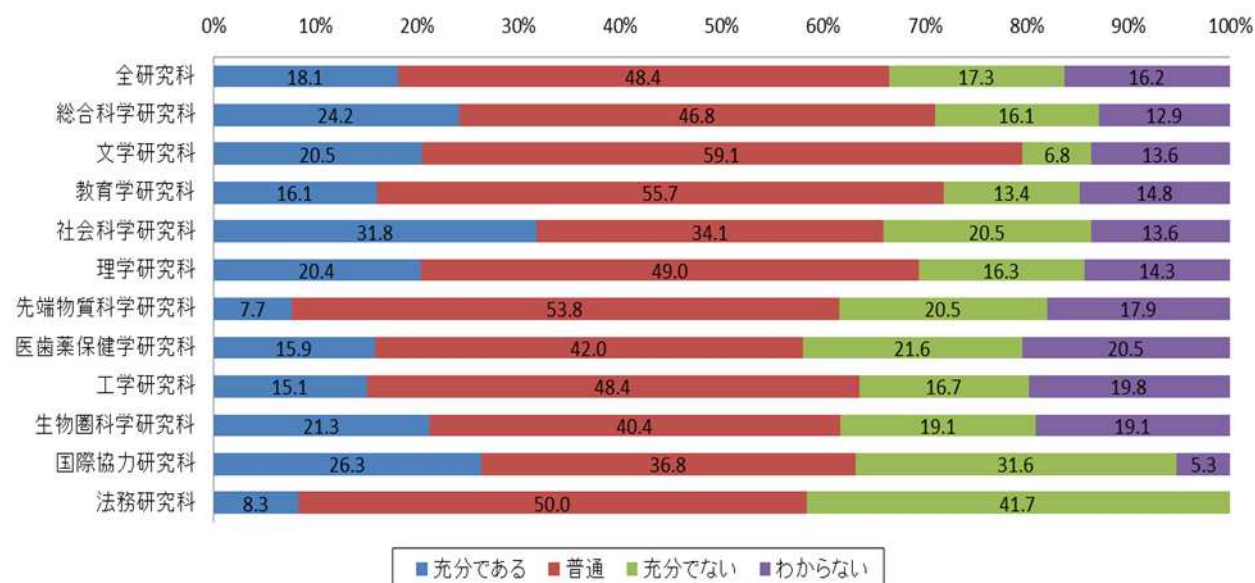
全体では「とても充実している」「やや充実している」を合わせると 56.0%であり、過去の調査では 54.2%であるから、若干増加している。「あまり充実していない」「全く充実していない」と回答したのは 11.0%であり、研究科によって 4.5%から 17.9%とばらつきがあった。これらの結果は過去の調査と同様の傾向であった。学部生と比較すると、「充実している」が減少し、「充実していない」が増加している。



16 授業以外の学生生活に対する大学のサポート体制やサービス

設問 30 授業以外の学生生活に関して、大学側のサポート（支援）体制やサービス内容・メニューは、全般的に見て充分だと思いますか。

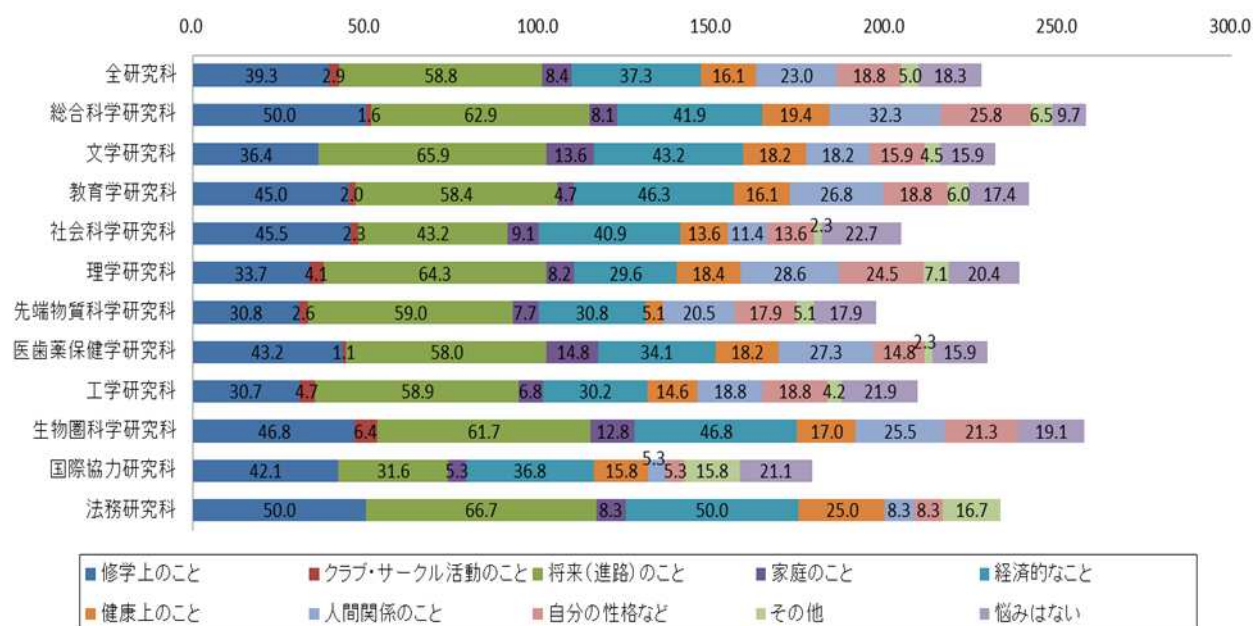
「充分である」が 18.1%であり、前回調査では 15.9%であるから増加している。「充分でない」が 17.3%であり、前回調査では 20.0%であるから減少している。「充分である」「普通」を合わせると 66.5%であり、前回調査では 63.1%であるから、サポート体制やサービスは充実してきているといえよう。この結果は、学部生と比較しても充実度で高い数値を示している。



17 学生生活の悩み

設問 31 学生生活の中で悩みがありますか。(複数回答可)

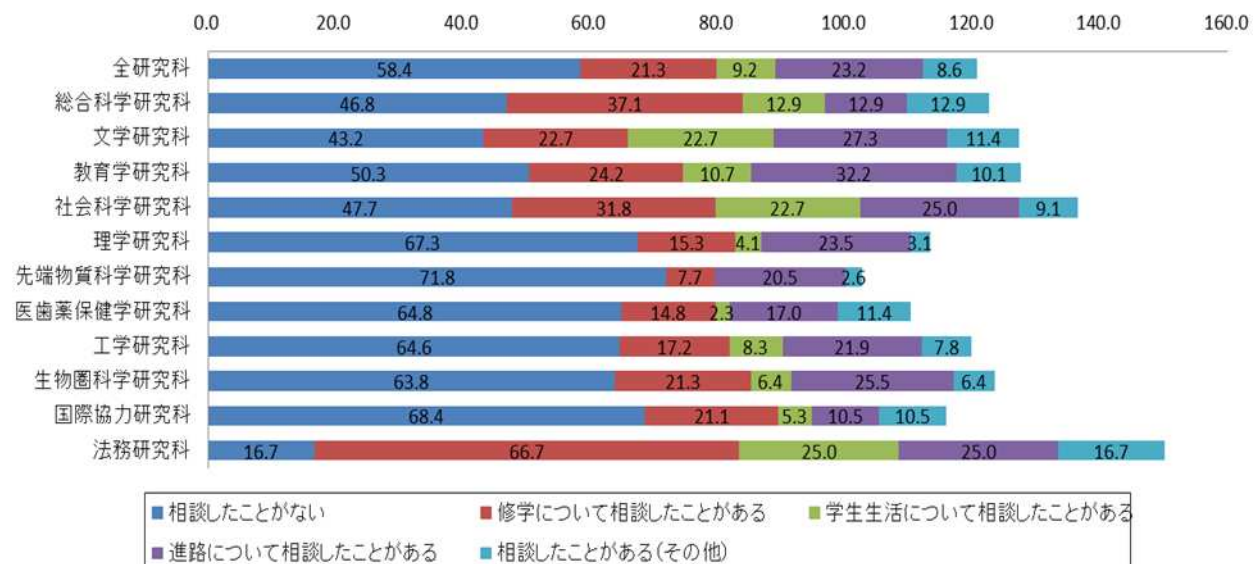
「悩みはない」者は18.3%であった。悩みの割合の高かったのは将来(進路)のこと58.8%(前回調査65.0%)であり、次に修学上のこと39.3%(43.3%)、経済的なこと37.3%(37.8%)、人間関係23.0%(24.9%)、自分の性格など18.8%(23.3%)、と続く。前回調査では「悩みはない」という回答がなかったことから、今回調査よりも割合が高くなった可能性はあるが、前回調査と同様の傾向であった。学部生と比較すると、将来(進路)についてはほぼ同様であるが、修学上のことは学部生が22.9%であるから、研究に関する悩みが大学院生は高い。



18 チューターへの相談と相談内容

設問 32 修学や学生生活に関して相談するチューター教員がいますが、チューターに相談したことがありますか。相談したことがある場合は、相談内容を選択してください。(複数回答可)

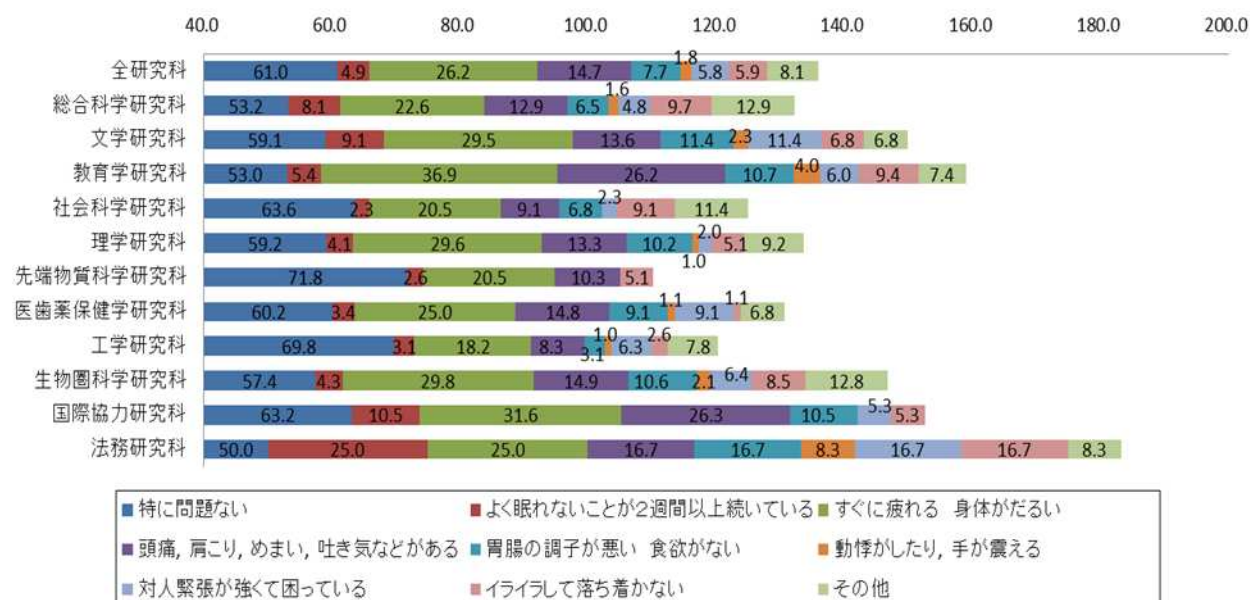
全体では41.6%が相談の経験があり、前回調査では38.5%であるから増加している。学部生32.0%と比較しても相談経験は高い。相談内容は、修学、すなわち研究について20.7%、進路について19.8%となっている。法務研究科は研究科の直轄から相談経験は8.33%と特に高い。



19 現在の健康状態

設問 33 現在の健康状態はどうか。(複数回答可)

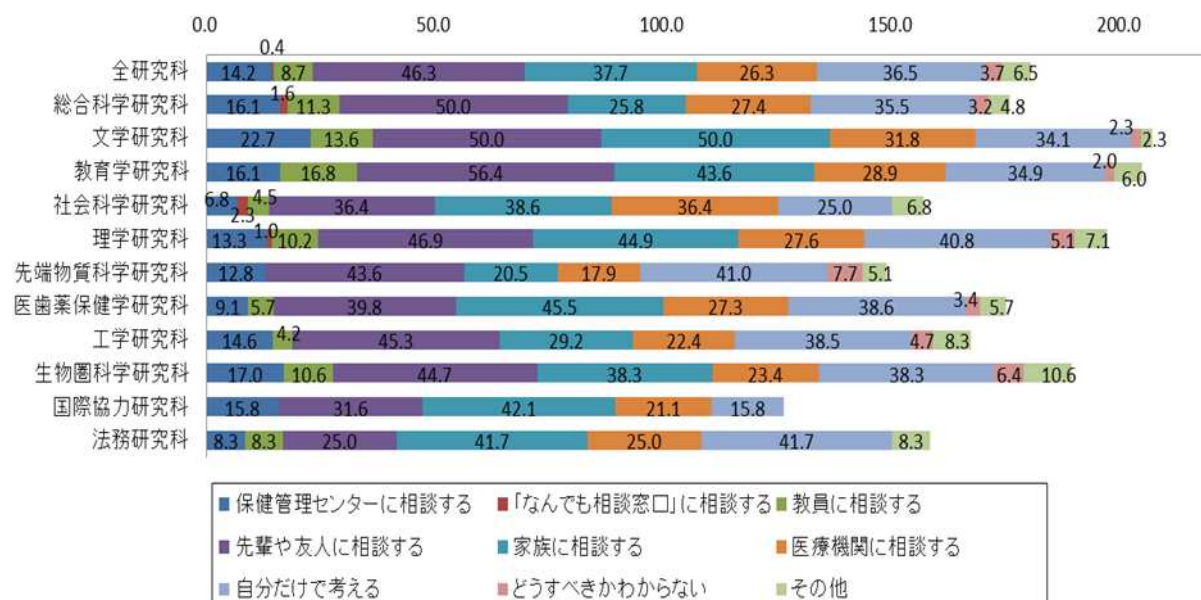
全体では 61.0%が特に問題ないと回答している。その一方で、不調として多く回答されたのは、すぐに疲れる・身体がだるい 26.2%，頭痛・肩こり等 14.7%，胃腸の調子が悪い・食欲がない 7.7%，イライラして落ち着かない 5.9%，対人緊張が強くて困っている 5.8%，よく眠れないことが 2 週間以上続いている 4.9%である。過去の調査と同様の傾向であるが、学部生と比較すると対人緊張以外の項目はポイントが高くなっている。うつ病の身体症状が懸念される状態、ストレスや疲労が蓄積している様子が示唆された。



20 身体面・心理面の悩みの解消

設問 34 身体面, 心理面で何か悩みが生じた場合には, 解消に向けてどうしますか。(複数回答可)

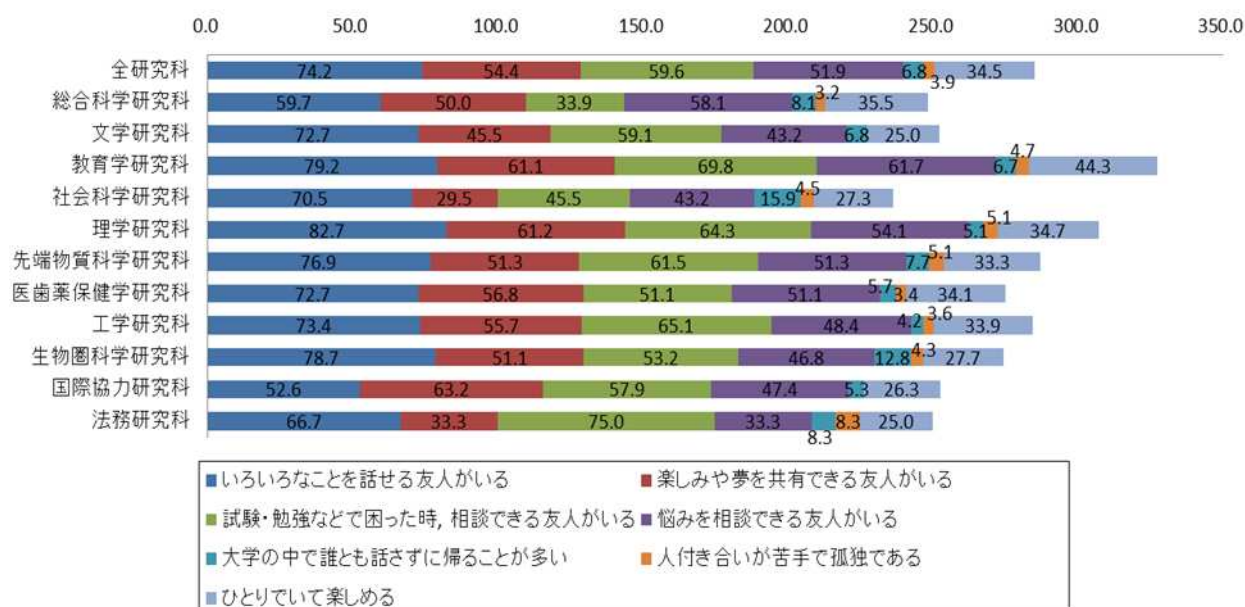
自分だけで考えると回答した者が 36.5%であった。他者に相談する場合の対象は、先輩や友だちが 46.3%，家族が 37.7%，医療機関が 26.3%，保健管理センターが 14.2%，教員が 8.7%であり、どうすべきかわからないと回答した者は 3.7%であった。この結果も過去の調査と同様の傾向であった。その一方、学部生と比較して、相談の対象が先輩や友だち、家族が減って、教員や医療機関、保健管理センターが増えている。



2 1 友人との関係

設問 35 友人についてお尋ねします。(複数回答可)

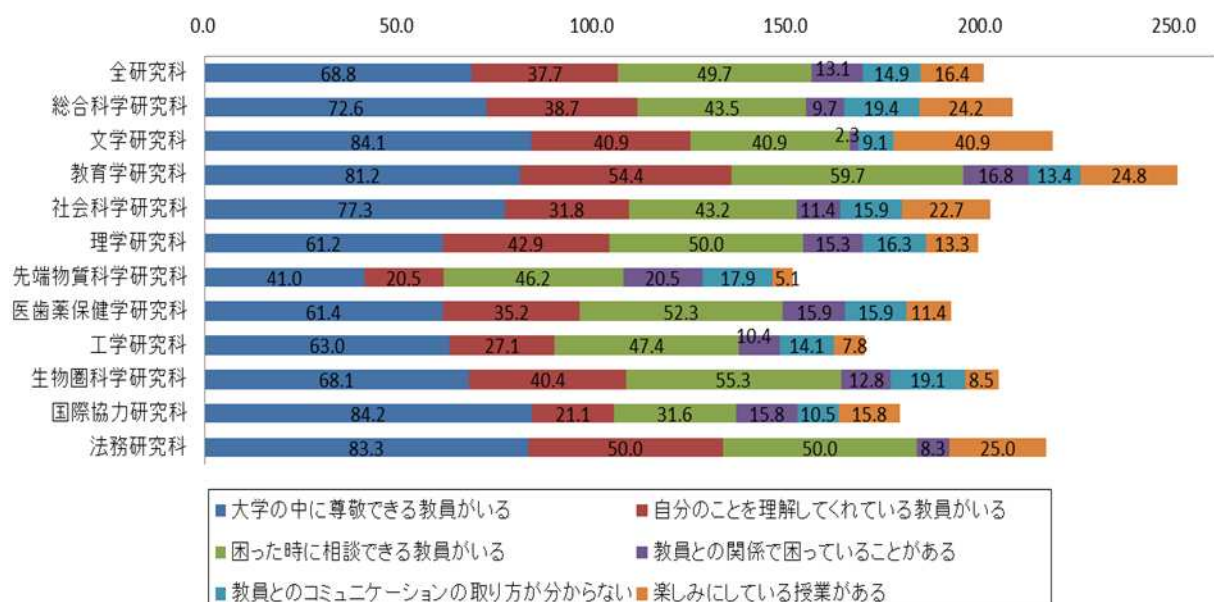
友人との関係では、いろいろなことを話せる友人がいる 74.2%，試験・勉強などで困った時、相談できる友人がいる 59.6%，楽しみや夢を共有できる友人がいる 54.4%，悩みを相談できる友人がいる 51.9% であり、5割から7割の学生は楽しみも悩みも共有できる友だちがいる。ひとりだけで楽しめる者も 34.5% いた。その一方で、大学の中で誰とも話さずに帰ることが多い 6.8%，人付き合いが苦手で孤独である 3.9% と孤立傾向の者もいる。この結果も前回調査と同様の傾向であった。学部生と比較すると、楽しみや悩みを共有する友だちは減少している一方で、孤立傾向の者も減少している。



2 2 教員との関係

設問 36 教員についてお尋ねします。(複数回答可)

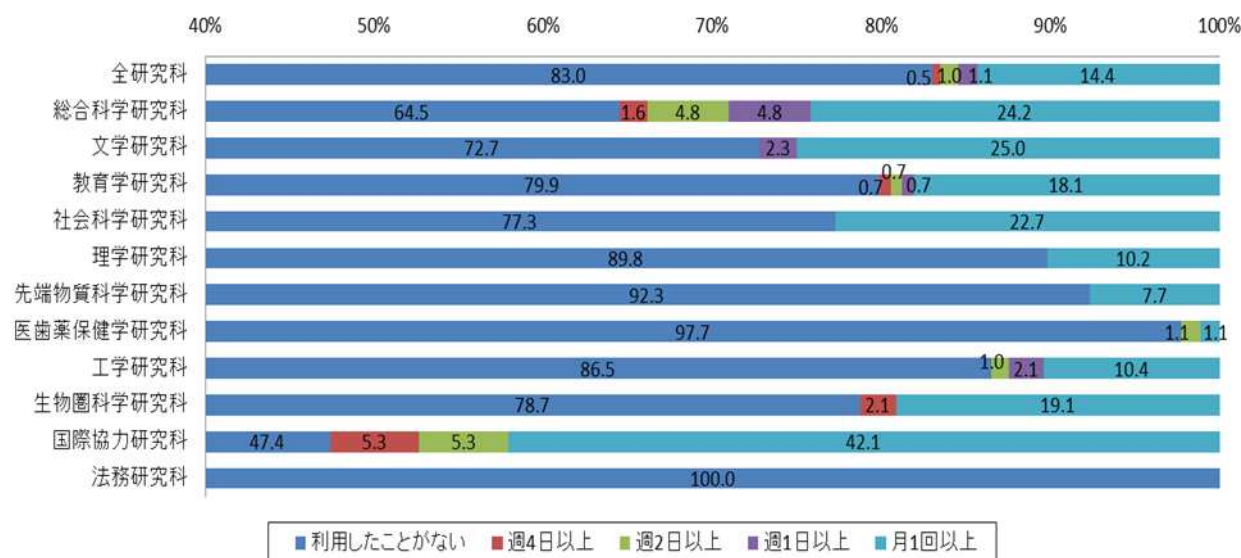
全体では 68.8%の学生が大学の中で尊敬できる教員がいると回答し、困った時に相談できる教員がいる 49.7%，自分のことを理解してくれている教員がいる 37.7% となっており、教員と良好な関係をもつ者があった。その一方で、教員との関係で困っていることがある 13.1%，教員とのコミュニケーションの取り方が分からないが 14.9% を示していた。他の項目と比較して、研究科間で回答にばらつきがあり、研究科によって教員との関係に特徴があることが示唆された。学部生と比較すると、教員との関係が密になり、コミュニケーションもとれている者が多く、教員が大学院生のロールモデルになっていることが推察された。その一方で、教員との関係で困っている学生の割合は増えている。



2 3 学生交流スペースの利用

設問 37 「学生プラザ1階のフリースペース」や西第1 福利会館の集会室を利用したことがありますか。

学部生では「利用したことがない」が 47.9%であったが、大学院生になると 83%が「利用したことがない」と回答している。これは、大学院生になると研究室や自習室のように学生用スペースが確保されていることから、学部生のようにフリースペースを活用する機会が少ないと考えられる。なお、総合科学研究科と国際協力研究科では利用者が多いが、総合科学研究科は施設が近いため、国際協力研究科は学生プラザの留学生部門に、留学生等が手続きやイベントで来る機会が多いためと考えられる。

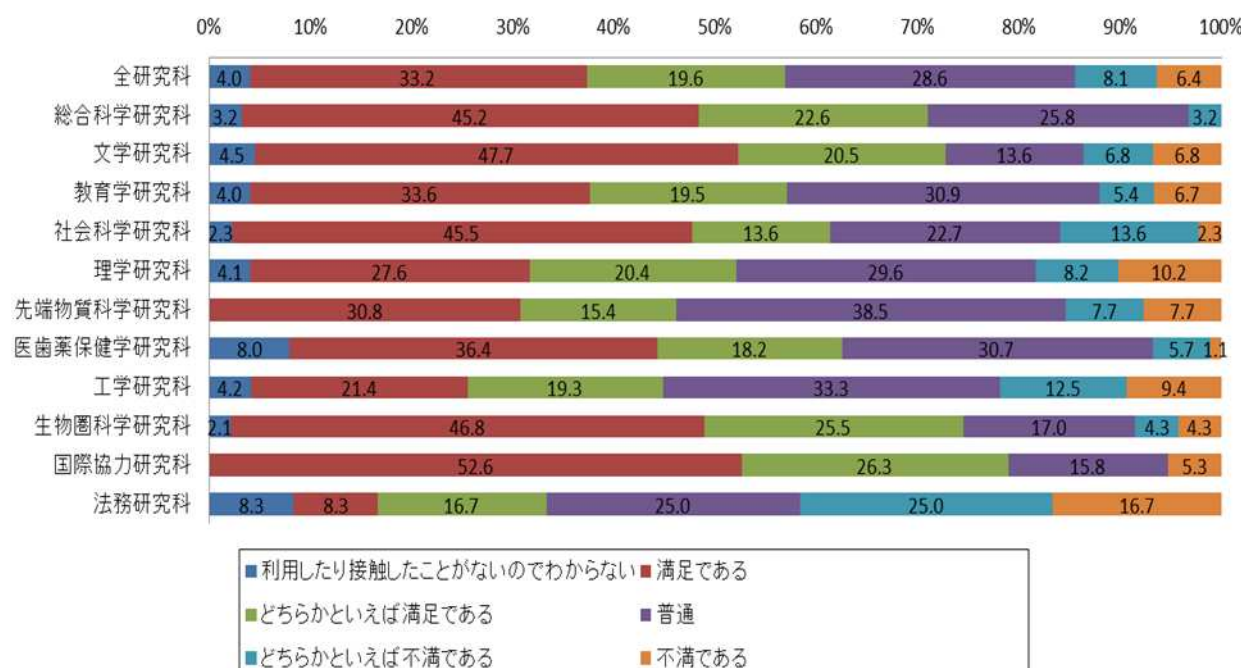


2 4 所属学部の学生支援室の対応

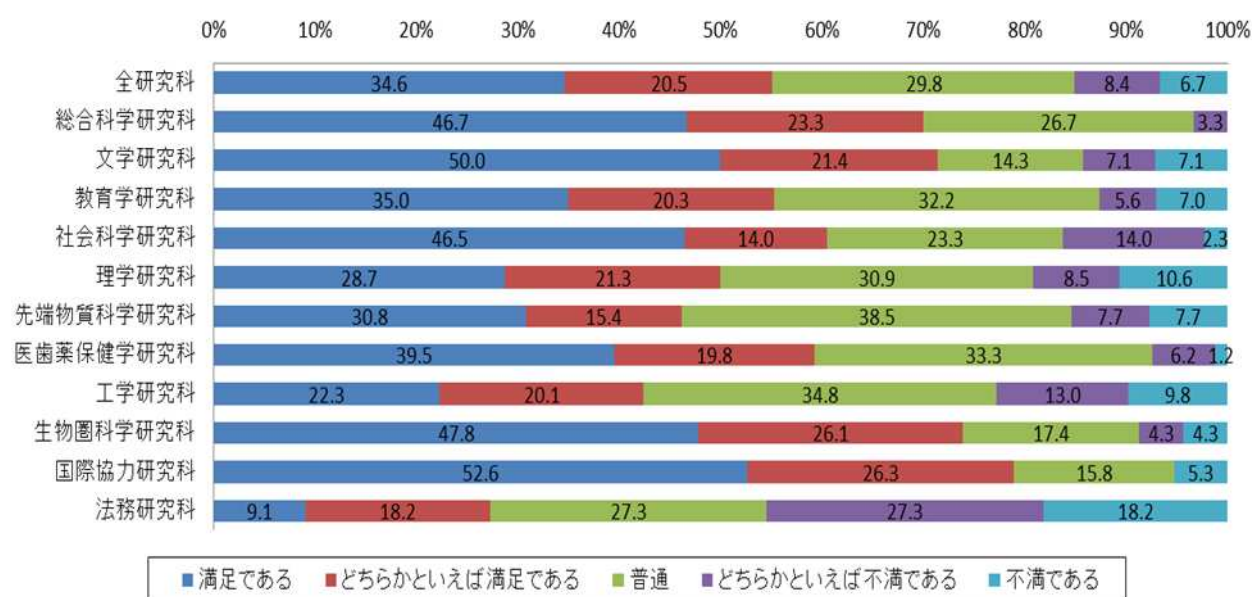
設問 38 所属学部・研究科の学生支援室の対応について、印象や満足度を教えてください。

全体の 96%（グラフ 1）が学生支援室を利用等しているが、そのうち「満足である」「どちらかといえば満足」と回答したのは 55.1%（グラフ 2）であり、学部生よりも大学院生の方が学生支援室をよく利用等する上に満足度が高い結果である。また、「満足である」「どちらかといえば満足」と回答した割合（グラフ 2）が高いのは、総合科学研究科（70%），文学研究科（71.4%），生物圏科学研究科（73.9%），国際協力研究科（78.9%）であるが、法務研究科は満足度が低く、「不満足である」「どちらかといえば不満足」と回答した割合（グラフ 2）が 45.5%と高い。

【グラフ 1（利用したことがない者を含む）】



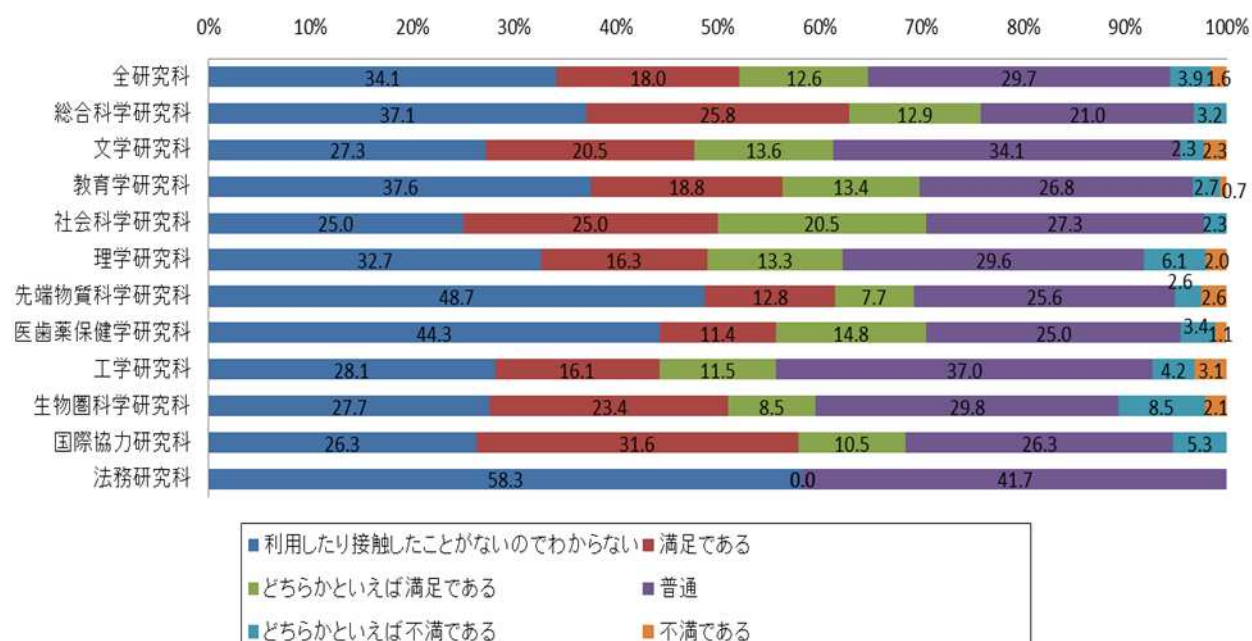
【グラフ1（利用したことがある者のみ）】



2.5 学生プラザの学生支援部門の対応

設問 39 学生プラザの学生支援部門の対応について、印象や満足度を教えてください。

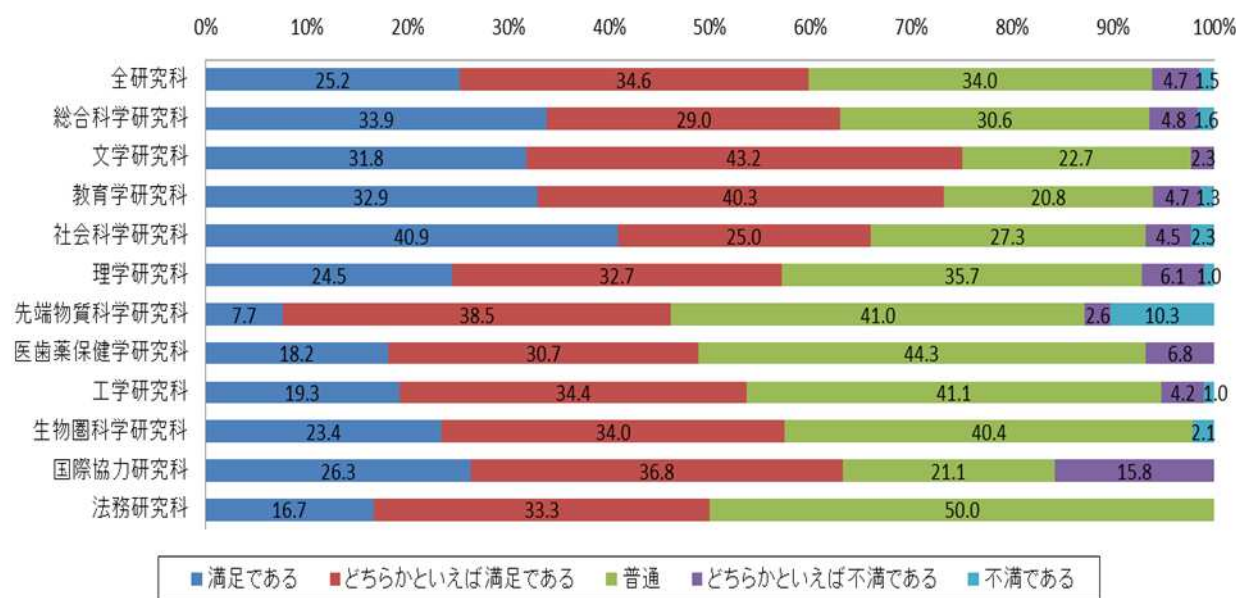
全体の 65.9%が学生プラザの学生支援部門を利用したり接触しており、前回調査より 6%程上昇している。「満足である」「どちらかといえば満足」と回答した割合も前回調査より 5%程上昇しているが、「不満足である」「どちらかといえば不満足」と回答した割合は、前回と同様の結果である。



2 6 本学の教育・学習，学生生活などの全体的な満足度

設問 40 本学での教育・学習，学生生活などに関して，全体として「良い」「楽しい」と感じるなど，満足していますか。

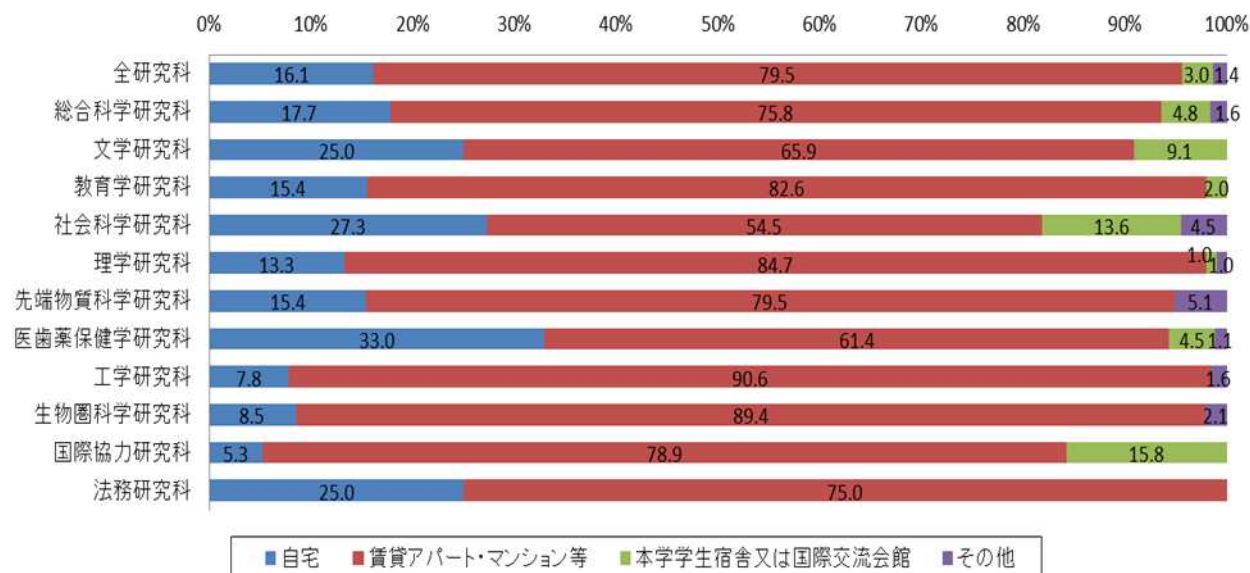
「満足である」「どちらかといえば満足」と回答したのは，文学研究科（75%）と教育学研究科（73.2%）で高いが，先端物質科学研究科は「満足である」が 7.7%と低く，「不満足である」「どちらかといえば不満足」と回答した割合が，先端物質科学研究科と国際協力研究科では他の研究科より若干高い。



2 7 居住形態

設問 41 居住形態を教えてください。

全体として，学部生と同様に「賃貸アパート・マンション等」の割合が 79.5%と高い。また，社会科学研究科と国際協力研究科で「本学学生宿舎又は国際交流会館」の割合が他の研究科より高いが，これは留学生で「本学学生宿舎又は国際交流会館」に入居しているものが多いためと考えられる。



28 通学方法

設問 42 通学方法を教えてください。(複数回答可)

学部生では「自動車」が少なかったが、大学院生になると大きく増加している。また、社会科学研究科で「広電電車」が他の研究科より高い割合であるが、これは社会科学研究科の一部大学院生が東千田キャンパスに通学するためと考えられる。

